DENON

ホームシアターシステム

DHT-S511HD
DHT-E710HD

AVサラウンドアンプ

AVC-S511HD

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。
  詳しくは、「保障と修理について」(☞66 ページ)をご覧ください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない
本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない
機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら
機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない
使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

高温注意

禁止

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない
こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意
禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施
禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

禁止

間違えると電池の破裂·液漏れにより、火災·けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

本書について

❑操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

❑マークについて

☞ このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

ご注意 このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

❑イラストについて

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をお使いになると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをお使いの際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

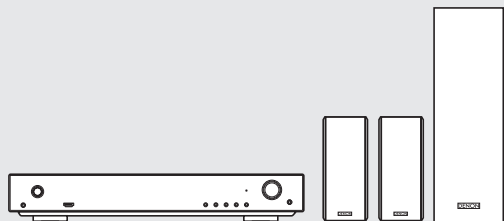
結露（つゆつき）について

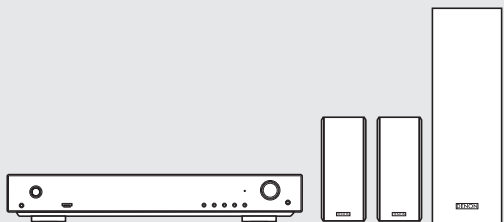
本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

システム構成について

各システムは次のユニットで構成されています。
（本書は 3 モデル共通の取扱説明書です）

❑ DHT-S511HD **2.1 チャンネルホームシアターシステム**

ユニット構成： **AVC-S511HD** **AV アンプ**
SC-AS511 **フロントスピーカー**
DSW-S511 **サブウーハー**

❑ DHT-E710HD **2.1 チャンネルホームシアターシステム**

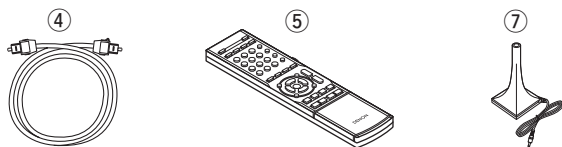
ユニット構成： **AVC-S511HD** **AV アンプ**
SC-AE710 **フロントスピーカー**
DSW-S511 **サブウーハー**

❑ AVC-S511HD **AV アンプ**

付属品を確認する

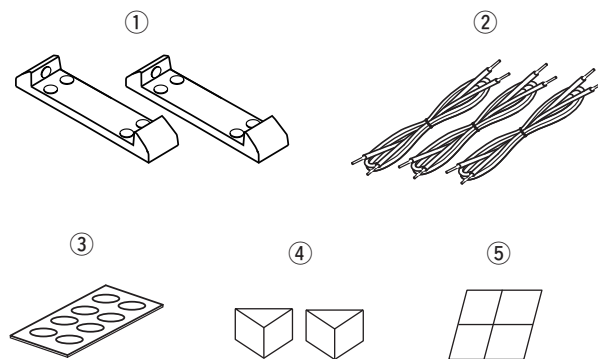
ご使用の前にご確認ください。

AV アンプに同梱している付属品

① 取扱説明書（本書）..1
② 保証書（梱包箱に貼り付けています）..............................1
③ 製品のご相談と修理･サービス窓口のご案内 1
④ 光伝送ケーブル（長さ：約1m）...1
⑤ リモコン（RC-1125）...1
⑥ 単4形乾電池...2
⑦ セットアップマイク
　（DM-A409、コードの長さ：約6m）...............................1

④　⑤　⑦

スピーカーシステムパックに同梱している付属品

（DHT-S511HD/DHT-E710HD）

① サブウーハー用台座...2
② スピーカーケーブル（長さ：約3m）..................................3
③ すべり止め（1シート8枚）...1
④ コーナーパッド...2
⑤ 両面テープ 4

本機の特長

３通りのサラウンドシステムバリエーションに対応

本機は次の３通りのサラウンドシステムに対応しています。お住まいの環境に合わせて最適なサラウンドシステムでお楽しみください。

❑ 2.1 チャンネルフロントサラウンドシステム
（☞10 ページ）

DHT-S511HD、DHT-E710HD の基本システムです。
ドルビーバーチャルスピーカー機能により、本機に入力したマルチチャンネル音声信号を、フロントスピーカーとサブウーハーに振り分けてサラウンド再生をします。
フロントスピーカー２本とサブウーハーを使って、臨場感豊かなサラウンド再生をお楽しみいただけます。

❑ 5.1 チャンネルサラウンドシステム（☞10 ページ）

DHT-S511HD、DHT-E710HD の基本システムに別売りの SYS-S500CS（センタースピーカー / サラウンドスピーカーユニット）を組み合わせると、本機に搭載している 6 チャンネルすべてのアンプを使った 5.1 チャンネルのサラウンド再生をします。豊かな臨場感と迫力のあるサラウンド再生をお楽しみいただけます。
この方法では、DVD やデジタル放送の 5.1 チャンネル音声をそのまま再生できます。

❑ 7.1 チャンネルサラウンドシステム（☞32 ページ）

5.1 チャンネルサラウンドシステムにお手持ちの２チャンネルパワーアンプとサラウンドバックスピーカー２本を加えて、7.1 チャンネルシステムに拡張できます。サラウンドバックスピーカーの追加により、より臨場感豊かにサラウンド再生をお楽しみいただけます。
この方法では、ブルーレイディスクに 7.1 チャンネルで収録されている Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio の音声をそのまま再生できます。

HDMI 接続によって実現する便利な HDMI 機能を多数搭載

❑ **3D 映像信号の入出力に対応**（☞21 ページ）

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D 映像信号を、3D 対応テレビに出力することができます。

❑ **本機でテレビの音声を再生する ARC（Audio return channel）機能**（☞21、34 ページ）

テレビの音声を、本機とテレビ（＊1）を接続している HDMI ケーブルを使って本機に入力し、本機で再生します。

＊1 テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

❑ **再生中の番組に最適なサラウンドモードを自動的に設定するジャンルオートサラウンド機能**（☞34、48 ページ）

本機と HDMI 接続しているテレビ（＊2）で受信している番組の EPG（電子番組表）の情報を読み取り、その番組のジャンル（「映画」、「音楽」、「ニュース」など）に最適なサラウンドモードを自動的に切り替えてサラウンド再生をします。

＊2 テレビも放送番組に応じてサラウンドモードを自動的に切り替える機能に対応していることが必要です。
テレビの対応メーカー：東芝、日立（2010 年 10 月現在）

❑ **テレビやレコーダーとの連動操作ができる HDMI コントロール機能（CEC）**（☞17 ページ）

テレビ（＊3）のリモコンから本機の電源のオン / オフ、入力ソースの切換、音量の調節などがおこなえます。
また、本機の電源がスタンバイのときでも本機に HDMI 接続しているプレーヤーの映像と音声を、本機を経由してテレビに伝送するパス・スルー機能にも対応しています。

＊3 テレビも HDMI コントロール機能に対応していることが必要です。
テレビの対応メーカー：シャープ、パナソニック、東芝、日立、三菱、ソニー（2010 年 10 月現在）
接続する機器や設定によっては動作しない場合があります。

ブルーレイディスクの HD オーディオやデジタル放送の AAC 音声フォーマットに対応

ブルーレイディスクの音声フォーマットである Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio などの高品位デジタル音声フォーマットに対応したデコーダーを搭載しており、HD オーディオの高品位なサウンドを存分にお楽しみいただけます。また、地上デジタル放送や BS デジタル放送の音声フォーマットの AAC 方式にも対応。受信したマルチチャンネルオーディオ信号の豊かな臨場感のまま再生をお楽しみいただけます。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力：3 系統、出力 1 系統）

本機には、4 台までの HDMI 対応機器との接続に対応しています。
フロントパネルには、ゲームやビデオカメラとの接続に便利な前面 HDMI 端子を装備しています。

お部屋に合わせてスピーカーの音響特性を最適化にするオートセットアップ機能を搭載（☞12 ページ）

本機に搭載している Auto Setup 機能は、お部屋の持つ音響の特性やお使いになるスピーカーに合わせて、本機の出力に関する各種の設定を、自動的に最適化するための機能です。付属の専用マイクを使って画面のガイドに沿って測定をおこなうことで、最適な環境を作ることができます。

音の大小をリアルタイムに調節する Audyssey Dynamic Volume® を搭載（☞43 ページ）

本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節します。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切なボリウムコントロールを自動的におこないます。

ブルーレイディスクプレーヤーやレコーダーとの組み合わせに適したスリムなデザイン。高級感を演出する光沢ブラックフェイスデザイン

本機は高さ 67mm のスリムなデザインに、最新のオーディオ・ビデオフォーマットに対応した高音質 A V アンプの機能を搭載しています。また、フロントパネルにはリスニングルームの環境にマッチしやすい高級感のある光沢ブラックフェイスデザインを採用しました。

高比重樹脂をキャビネットに採用したスピーカーユニット（SC-AS511、SC-AE710）

フロントスピーカーのキャビネットには高比重の樹脂を採用。音の輪郭をくっきりと再生することで、音楽や映画の魅力を十二分に引き出します。また、ユニットの取り付けに傾斜をつけるスラント構造を採用することで、ローボードのテレビ台などの上に置いても音がダイレクトに耳に届き、クリアで迫力のあるサウンドを楽しめます。

豊かな音の再生を実現するデュアルユニット構成（SC-AS511、SC-AE710）

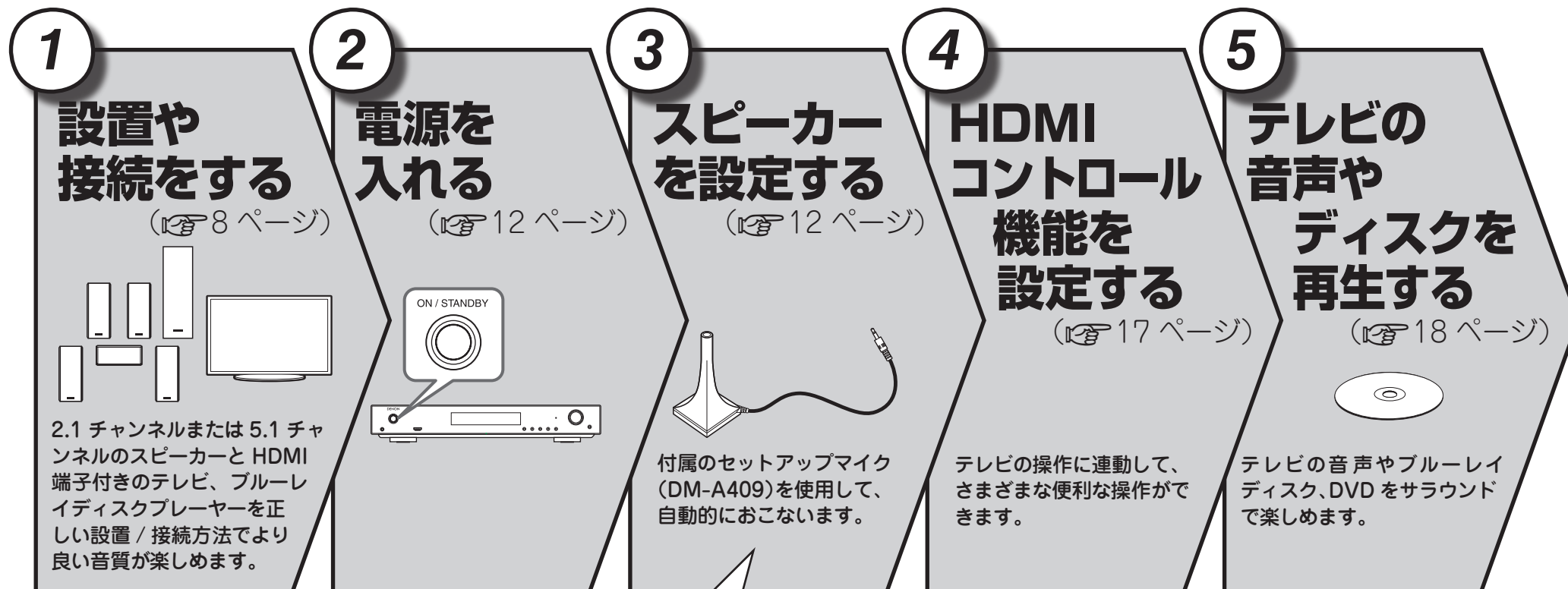
1 台のスピーカーに 2 つのスピーカーユニットを採用するデュアルドライブ方式にすることでコンパクトサイズでありながら広い振動板の面積を確保し、豊かで小気味よい定位感を持つ再生を実現しています。

サブウーハーにフレア付きダクトを採用（DSW-S511）

サブウーハー内部の空気の通り道となるダクトにフレアを装備することで、ダクトの低域増幅効果をよりスムーズに引き出すことができ、広がり感のある高品質な低音再生を実現しています。

Simple version 入門編（かんたんセットアップガイド）

ここでは、ホームシアターを簡単にお楽しみいただくための手順を説明しています。
「入門編」では、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法については、32 ページをご覧ください。

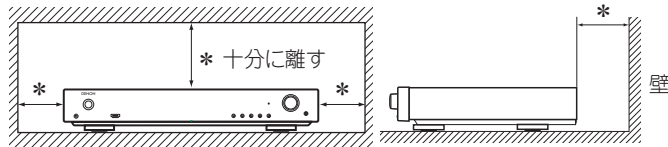
- ❑ **接続するときは、各機器の電源を切ってください。**
- ❑ **接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。**

スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）

準備	ステップ 1（Step 1） **スピーカー検出** **（Speaker Detection）**	ステップ 2（Step 2） **測定** **（Measurement）**	ステップ 3（Step 3） **解析** **（Calculating）**	ステップ 4（Step 4） **解析完了** **（結果の確認）** **（Check）**	ステップ 5（Step 5） **保存** **（Store）**	完了

1 設置や接続をする

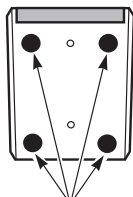
設置の前の準備とご注意

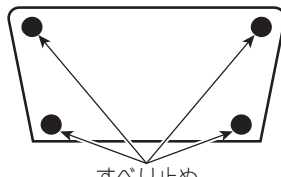
❑ AV アンプ

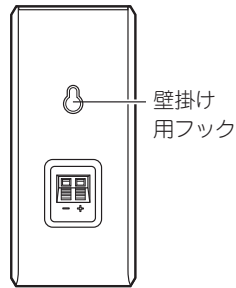
本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

＊30cm 以上

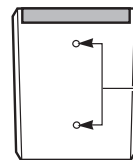
❑ フロントスピーカー

置いて使う場合

【 縦向きの場合 】

【 横向きの場合 】

付属のすべり止めを 4 箇所に貼ってください。

✎ スピーカーを横向きに使用する場合は、サランネットのバッチを回して横向きにしてください。

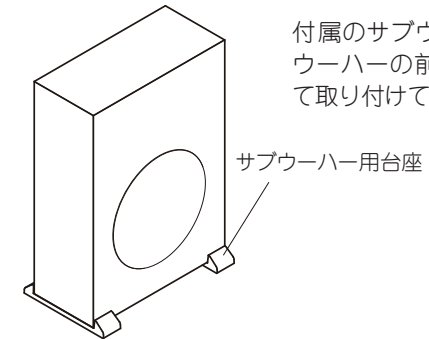
壁に取り付ける場合

背面にある壁掛け用フックを利用して、壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にねじ頭などを差し込みます。ねじは、スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。

別売りのスピーカースタンドやスピーカーブラケットを使う場合

スピーカースタンド ASS-80
スピーカーブラケット ASG-10/ASG-20
取り付けねじ穴

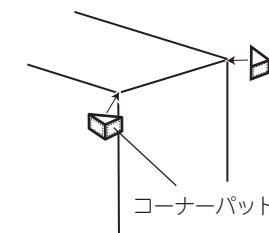
警告

- **スピーカーケーブルを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、ケーブルは必ず壁などに固定してください。**
- **ブラケットやスピーカースタンドを使って取り付ける際は、ブラケットやスピーカースタンドの説明書に従い、十分注意してしっかりと取り付けてください。**
- **取り付け後は、必ず安全性を確認してください。**
- **また、その後定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け場所、取り付け方法の不備によるいかなる損害、事故について当社は一切その責を負いません。**

❑ サブウーハー

台座の取り付けかた

サブウーハー用台座

付属のサブウーハー用台座をサブウーハーの前面と背面に合わせてて取り付けてください。

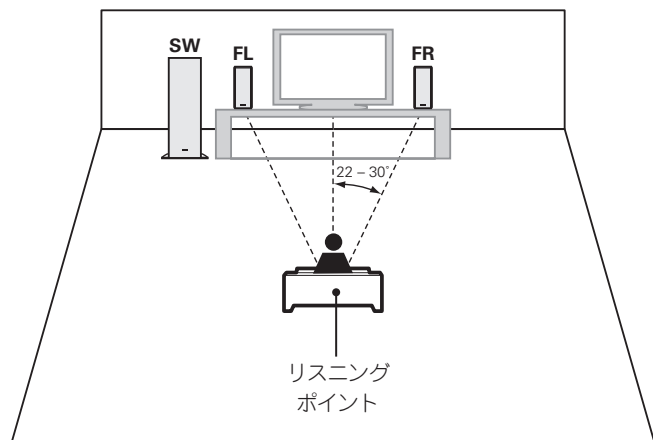
コーナーパッドの取り付けかた

小さなお子様がサブウーハーのコーナーにぶつかりけがをされないように、付属のコーナーパッドをサブウーハー天面前方の両側コーナーに取り付けてください。
取り付けには付属の両面テープをお使いください。先にサブウーハーの接着する面に付属の両面テープを貼ってから、コーナーパッドを取り付けてください。

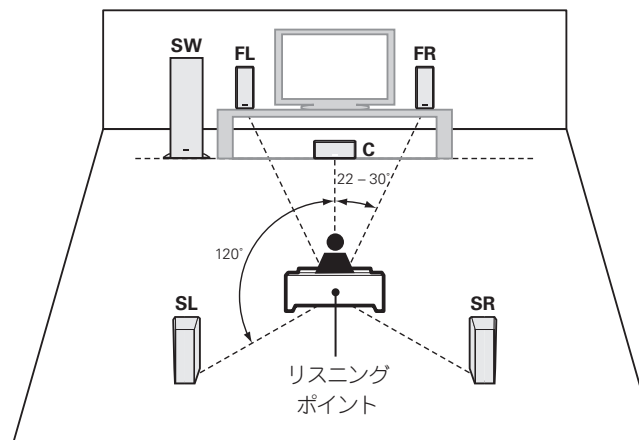
「入門編」では、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法については、32 ページをご覧ください。

本機では、2.0/2.1～7.1 チャンネルのサラウンド再生ができます。
ここでは、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネル再生のスピーカー設置を例に説明します。

本機のお買い上げ時の設定は、2.1 チャンネルです。
5.1 チャンネルで再生する場合は、5.1 チャンネルのスピーカーを接続してください。
本機の Audyssey Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、お使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

スピーカーを設置する

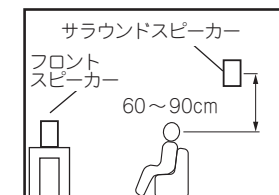
❏ 2.1 チャンネル再生

DHT-S511HD/DHT-E710HD の基本システムです。
ドルビーバーチャルスピーカー機能により、本機に入力したマルチチャンネル音声信号を、フロントスピーカーとサブウーハーに振り分けてサラウンド再生をします。フロントスピーカー２本とサブウーハーを使って、臨場感豊かなサラウンド再生をお楽しみいただけます。

❏ 5.1 チャンネル再生

DHT-S511HD/DHT-E710HD の基本システムに別売りの SYS-S500CS（センタースピーカー／サラウンドスピーカーユニット）を組み合わせると、本機に搭載している 6 チャンネルすべてのアンプを使った 5.1 チャンネルのサラウンド再生をします。豊かな臨場感と迫力のあるサラウンド再生をお楽しみいただけます。
この方法では、DVD やデジタル放送の 5.1 チャンネル音声をそのまま再生できます。

各スピーカーの略称について

FL　フロントスピーカー（L）
FR　フロントスピーカー（R）
C　センタースピーカー
SW　サブウーハー
SL　サラウンドスピーカー（L）
SR　サラウンドスピーカー（R）

サラウンドスピーカーを設置する高さについて

サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60～90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【 側面から見た図 】

「入門編」では、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法については、32 ページをご覧ください。

スピーカーを接続する

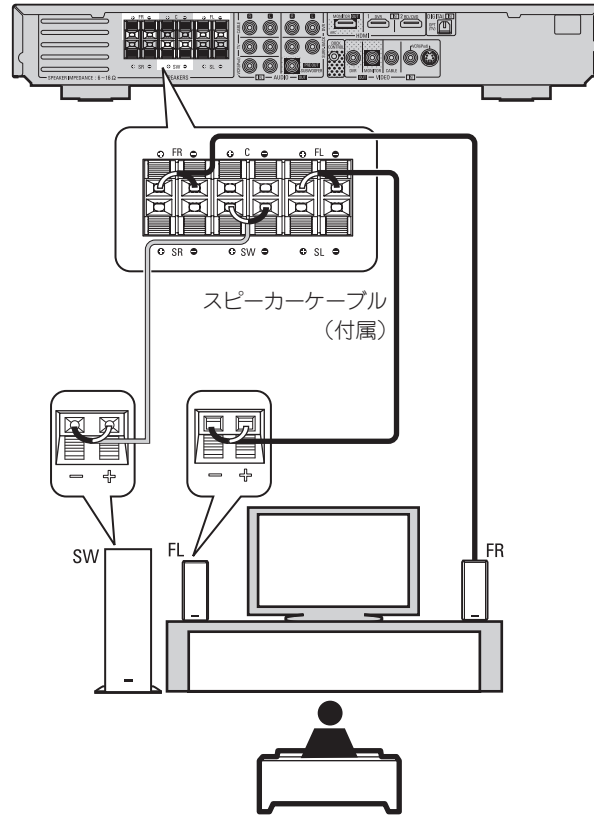
本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、−(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

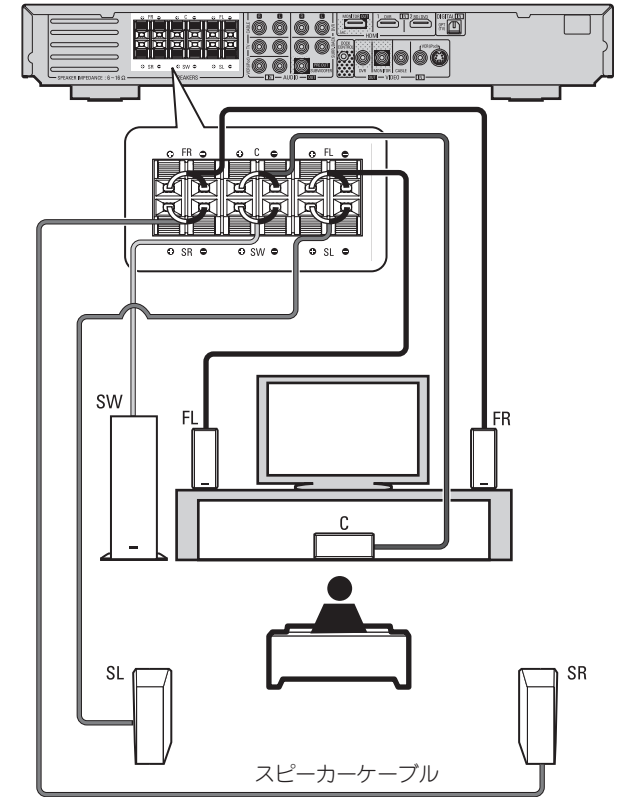
スピーカーケーブルを接続する

スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

ご注意

- **スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と−側が接触したりすると、保護回路が動作します(☞62 ページ「保護回路」)。**
- **通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。**
- **インピーダンスが 6〜16 Ωのスピーカーをお使いください。**

❑ 2.1 チャンネル再生

❑ 5.1 チャンネル再生

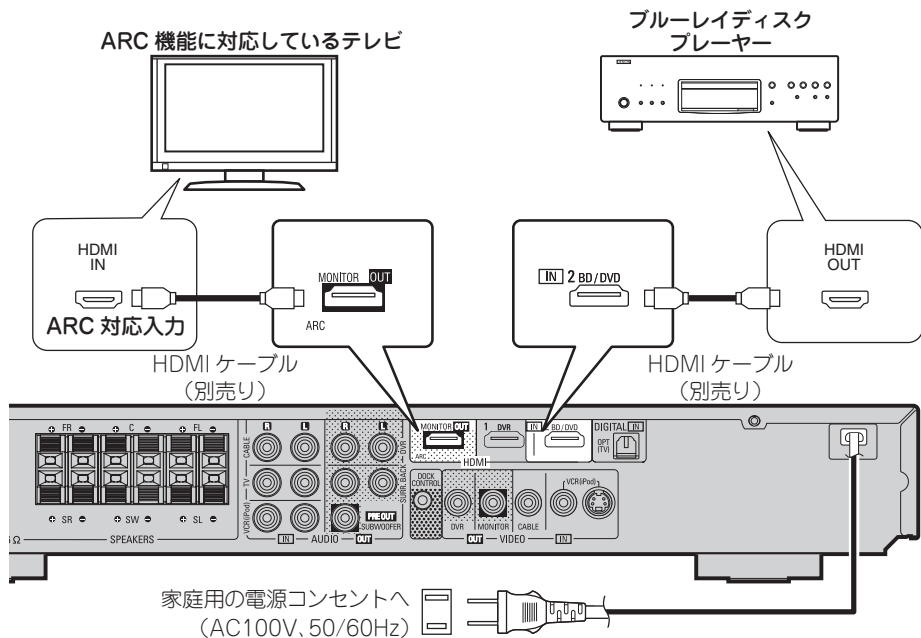
FL	フロントスピーカー(L)	SW	サブウーハー
FR	フロントスピーカー(R)	SL	サラウンドスピーカー(L)
C	センタースピーカー	SR	サラウンドスピーカー(R)

ご注意

スピーカーの音質は、部屋の大きさ・形態(洋室、和室)・設置のしかたによって変わりますので、次のことに留意して設置してください。

- スピーカーをレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置すると、ハウリングを起こすことがあります。
- スピーカーの背面や前面に壁やガラス戸などがある場合は、厚手のカーテンなどを掛けると共振や反射を防止できます。
- スピーカーをテレビに近付けるとテレビ画面に色むらを生じる場合があります。そのときはテレビの電源を切り、離して置き、15 〜 30 分後に再びテレビの電源を入れてください。その後も色むらが残るような場合には、スピーカーをさらに離して使用してください。
- サブウーハーは転倒による事故を防止するため、水平な床の上に設置してください。
- サブウーハーの上にレコードプレーヤー、CD プレーヤーなどの機器を設置しないでください。

「入門編」では、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法については、32 ページをご覧ください。

ブルーレイディスクプレーヤーとテレビを接続する

本機とブルーレイディスクプレーヤーの接続、本機とテレビの接続には HDMI ケーブル（＊）をお使いください。

ご注意

- **すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。**
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

＊HDMI ケーブルについて (HDMI 1.4a の 3D、ARC 機能対応のケーブル)

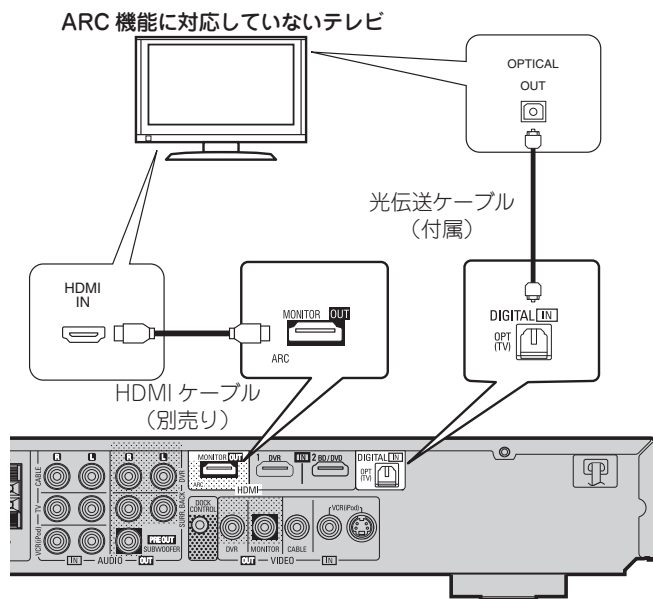
- HDMI（High-Definition Multimedia Interface）ケーブルは、HDMI ロゴが付いたケーブル（HDMI 認証品）をお使いください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）を使用した場合、正しい再生ができないことがあります。
- Deep Color または 1080p などの信号を伝送する場合は、高音質再生のために"イーサネット対応標準 HDMI ケーブル"または"イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル"をお使いください。
- ARC 機能を使用するときは、HDMI1.4a 対応の"イーサネット対応標準 HDMI ケーブル"または"イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル"で接続してください。

❑ テレビの音声を本機で再生するには

ARC 機能に対応しているテレビと HDMI 接続する

- ARC（Audio return channel 機能）とは、HDMI 接続している機器同士の音声信号を相互に伝送する機能です。これにより、テレビからの音声信号を HDMI ケーブル経由で本機に伝送します。
- ARC 機能に対応しているテレビの HDMI 入力端子と本機を接続してください。音声ケーブルを接続しなくても本機でテレビの音声を再生することができます。
- ARC 機能により、テレビの音声を再生する場合は、本機の"HDMI Control"の設定を"ON"にしてください（☞17 ページ「HDMI コントロール機能を設定する」）。
- テレビの ARC 機能を設定する必要があります。テレビの設定については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ARC 機能に対応していないテレビと HDMI 接続する

ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルの接続のみでは本機でテレビの音声を再生できません。本機に付属の光伝送ケーブルで音声接続をおこなうことにより、本機でテレビの音声を再生することができます。

「入門編」では、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法については、32 ページをご覧ください。

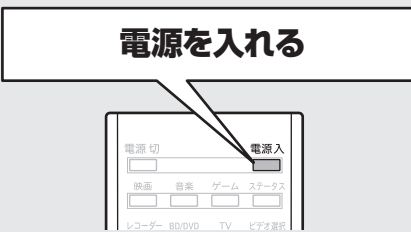
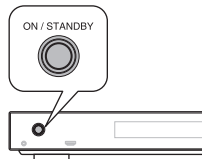
2 電源を入れる

1 テレビの電源を入れる。

2 **本機から出力する映像がテレビに映るように、テレビの入力を切り替える。**

- 入力の切り替えかたは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 **電源 入 を押して、本機の電源を入れる。**
電源表示が緑色に点滅してから緑色の点灯になり、電源がオンになります。

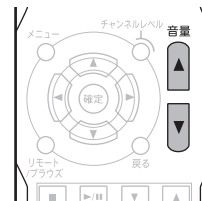
- 電源がスタンバイの時は赤色に点灯します。
- リモコンには乾電池を入れてからお使いください。
（☞55 ページ「乾電池の入れかた」）

本体の **ON/STANDBY** を押しても、電源電源が入ります。

3 スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を"Audyssey Auto Setup"と呼びます。
測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るために、6 ポイントで測定することをおすすめします。

- Audyssey Auto Setup をおこなうと、MultEQ®/Dynamic EQ®/Dynamic Volume® の機能（☞42、43 ページ）が有効になります。
- 手動でスピーカーを設定したい場合は、メニューの"Speaker Setup"（☞45 ページ）でおこなってください。

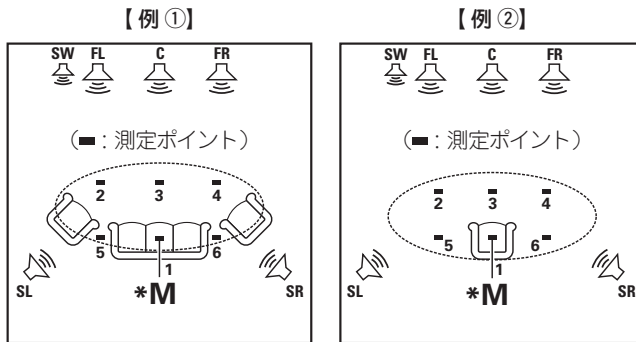
ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品（テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など）の電源を切ってください。測定の際、これらの騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、Audyssey Auto Setup が完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中に **音量 ▲▼** を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey Auto Setup をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

「入門編」では、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法については、32 ページをご覧ください。

セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように 6 ポイントで測定(6 回測定)することをおすすめします。測定ポイントの番号順に測定をおこなってください。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例 ①】

【例 ②】

FL	フロントスピーカー(L)	SW	サブウーハー
FR	フロントスピーカー(R)	SL	サラウンドスピーカー(L)
C	センタースピーカー	SR	サラウンドスピーカー(R)

メインリスニングポイント(* M)について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey Auto Setup をはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

準備

1 付属のセットアップマイクを準備する

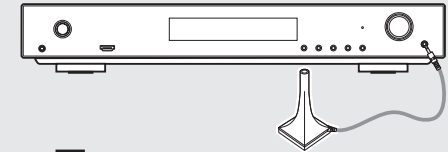
セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

三脚やスタンドがない場合は、背もたれの無い椅子の上などに設置してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。

3 △▽ を押して“Speaker Assign”（スピーカーの割り当て）を選び、◁ ▷ を押して“2.1ch” または “5.1ch”を選ぶ。

4 △▽ を押して“Start”（スタート）を選び、確定 を押す。

測定がはじまり、各スピーカーからテストトーンを出力します。

- 1 つの測定ポイントにつき数分間かかります。

“Cancel”（キャンセル）を選択したとき

テレビ画面に“Cancel Auto Setup?”（オートセットアップを中止しますか？）を表示します。“Yes”（はい）を選ぶと、Audyssey Auto Setup を終了します。

次のページへ

「入門編」では、2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法については、32 ページをご覧ください。

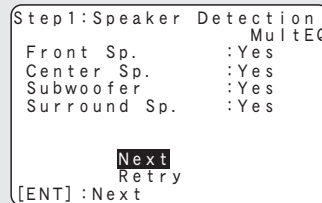
ステップ 1（Step 1）

スピーカー検出
(Speaker Detection)

- ステップ 1 では、メインリスニングポイントの測定をします。
- ここでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

5 検出されたスピーカーを表示します。

- 次の図は、フロントスピーカー / センタースピーカー / サブウーハー / サラウンドスピーカーが検出されたときの表示例です。

```
Step1:Speaker Detection
                  MultEQ
 Front Sp.       :Yes
 Center Sp.      :Yes
 Subwoofer       :Yes
 Surround Sp.    :Yes

         Next
         Retry
[ENT]:Next
```

ご注意

接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

6 △▽ を押して“Next”（次へ）を選び、確定 を押す。

ご注意

- スピーカーの設置や測定環境などにより、Audyssey® Auto Setup を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。その後、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください
- スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージについて

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
Caution MultEQ ●Microphone:None or Speaker :None Retry Cancel [ENT]:Retry	• 接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 • フロントスピーカーが正しく検出されない。	• 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ ●Ambient noise is too high or Level is too low. Retry Cancel [ENT]:Retry	• 部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
Caution MultEQ Front R :None Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	•表示されたスピーカーが検出されない(None)。（画面の例はフロントスピーカー（R）が検出されていないことをあらわします。）	•表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ Front L :Phase Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	•表示されたスピーカーの位相が逆である(Phase)。（画面の例はフロントスピーカー（L）の位相が逆になっていることをあらわします。）	•表示されたスピーカーの極性を確認してください。•スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、△▽を押して“Skip”（スキップ）を選び、確定を押してください。

再び Audyssey Auto Setup をおこなうとき

△▽を押して“Retry”（再測定）を選び、確定を押す。

測定を中止するとき

① △▽を押して“Cancel”（キャンセル）を選び、確定を押す。
② ◁ ▷を押して“Yes”（はい）を選び、確定を押す。

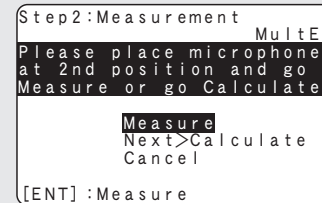
再度スピーカーを設定するとき

準備の手順 3 以降の操作をおこなってください。

ステップ 2（Step 2）
測定（Measurement）

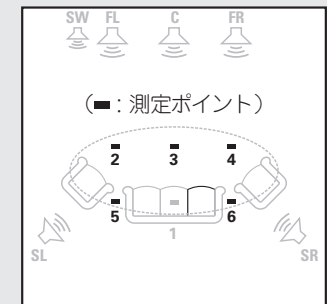
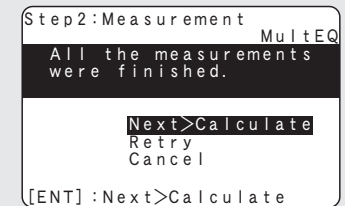
- ステップ 2 では、メインリスニングポイント以外の複数のポイント（2～6 ポイント）を測定します。
- 1 ポイントでも測定可能ですが、複数のポイントを測定するとリスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

7 2 ポイント目にセットアップマイクを移動させ、△▽ 押して“Measure”（測定）を選び、確定を押す。

2 ポイント目の測定をはじめます。最大 6 箇所まで測定できます。

次のポイント以降の測定を省略する場合は、“Next>Calculate”（次へ>解析）を選んでください。

（Step 3 Calculating へ進みます。）

8 手順 7 をくり返して、3～6 箇所のポイントを測定する。

6 ポイント目の測定が完了すると、“All the measurements were finished.”（すべての測定が終わりました。）を表示します。

FL フロントスピーカー（L）
FR フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
SW サブウーハー
SL サラウンドスピーカー（L）
SR サラウンドスピーカー（R）

次のページへ

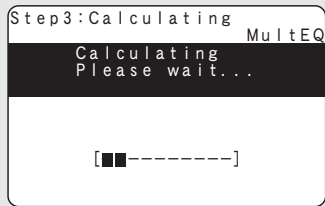
ステップ 3（Step 3）
解析
（Calculating）

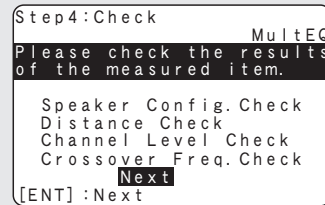
ステップ 4（Step 4）
解析完了（結果の確認）
（Check）

ステップ 5（Step 5）
保存
（Store）

完了

9 **Step 2 の画面で △▽ を押して"Next>Calculate"（次へ>解析）を選び、確定 を押す。**

測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

- 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。
  接続するスピーカーの数と測定ポイント数が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

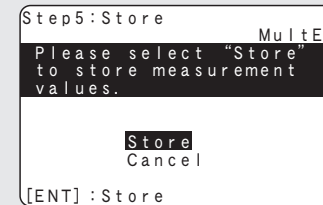
10 **△▽ を押して確認したい項目を選び、確定 を押す。**

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、戻る を押してください。

11 **△▽ を押して"Next"（次へ）を選び、確定 を押す。**

ご注意

スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

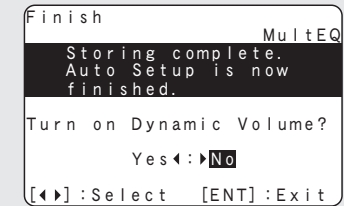
12 **△▽ を押して"Store"（保存）を選び、確定 を押す。**

測定結果を保存します。

- 保存には 10 秒程度かかります。
- 測定結果を保存しない場合は、△▽ で"Cancel"（キャンセル）を選んだ後、◁ ▷ で"Yes"（はい）を選んでください。すべての Audyssey Auto Setup の測定結果を消去します。
- 保存中は"Storing Please wait..."（保存中です…お待ちください）を表示します。
  保存が終了すると、"Storing complete. Auto Setup is now finished.（保存が完了しました。オートセットアップを終了します）"を表示します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

13 **本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。**

14 **Dynamic Volume® の設定をする。**

- 本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節します。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切なボリウムコントロールを自動的におこないます。

❑ **Dynamic Volume の設定をするとき**

- ◁ を押して"Yes"（はい）を選び、確定 を押す。
  自動的に"Evening"（夜間）モードになります。

❑ **Dynamic Volume の設定をしないとき**

- ▷ を押して"No"（いいえ）を選び、確定 を押す。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

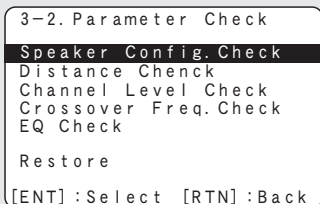
リモコンの操作ボタン メニュー メニューを表示する メニューを解除する カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右） 設定を確定する 戻る ひとつ前のメニューに戻る

パラメーターを確認する（Parameter Check）

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

1 △▽ を押して“Parameter Check”（パラメータ確認）を選び、確定 を押す。

2 △▽ を押して確認したい項目を選び、確定 を押す。

```
3-2. Parameter Check

Speaker Config. Check
Distance Chenck
Channel Level Check
Crossover Freq. Check
EQ Check

Restore
[ENT]:Select  [RTN]:Back
```

Speaker Config. Check	スピーカーの構成を確認します。
Distance Check	スピーカーの距離を確認します。
Channel Level Check	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
Crossover Freq. Check	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
EQ Check	イコライザーの補正カーブを確認します。

- 手順 2 で、“EQ Check”（EQ 確認）を選んだ場合は、△▽ を押して確認したい補正カーブ（“Audyssey” または “Audyssey Flat”）を選んでください。
  ◁ ▷ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

3 戻る を押す。
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

4 確認が終わったら メニュー を押してメニューを閉じる。

Audyssey Auto Setup の設定値に戻すとき

“Restore”（再設定）を“Yes”（はい）に設定すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey Auto Setup の測定結果（MultEQ® が当初計算した値）に戻すことができます。

4 HDMI コントロール機能を設定する ①②③④⑤

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御をおこなうことができます。

HDMI コントロール機能でできること

- ❑ **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
- ❑ **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- ❑ **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- ❑ **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- ❑ **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**
- ❑ **本機の入力ソースをテレビにすると、テレビの音声を本機で再生します（☞21 ページ「ARC(Audio return channel)機能」）。**
- ❑ **視聴しているテレビ番組のジャンルごとに、サラウンドモードを自動で切り替えることができます（☞48 ページ「Genre Auto Surr.」）。**
- ❑ **本機の電源がスタンバイのときでも、本機に HDMI 接続しているプレーヤーの映像と音声を、本機を経由してテレビに伝送できます（パス・スルー機能）。**

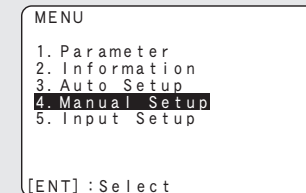
✎

- ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください（☞23 ページ「HDMI ケーブル以外でテレビを接続する」）。
- お買い上げ時のパス・スルー機能の設定は、本機の電源をオフにする前に、再生していた入力ソースがテレビに伝送するように設定しています。

設定のしかた

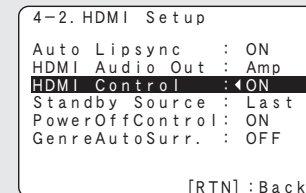
1 メニュー を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ を押して“Manual Setup”を選び、確定 を押す。

```
MENU

1. Parameter
2. Information
3. Auto Setup
4. Manual Setup
5. Input Setup

[ENT]:Select
```

3 △▽ を押して“HDMI Setup”を選び、確定 を押す。

```
4. Manual Setup

1. Speaker Setup
2. HDMI Setup
3. Audio Setup
4. Option Setup

[ENT]:Select  [RTN]:Back
```

4 △▽ を押して“HDMI Control”を選び、◁ ▷ を押して“ON”に設定して 確定 を押す。

```
4-2. HDMI Setup

Auto Lipsync    : ON
HDMI Audio Out  : Amp
HDMI Control    :◀ON  ▶
Standby Source  : Last
PowerOffControl : ON
GenreAutoSurr.  : OFF

             [RTN]:Back
```

5 メニュー を押す。
テレビ画面のメニューを解除します。

次のページへ

6 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

7 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。

- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 6、7 をおこなってください。

8 テレビの入力を、本機を接続している HDMI 入力に切り替える。

9 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るか確認する。

10 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

✎

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの“HDMI Control”の設定（☞48 ページ）が“ON”になっているか。
- メニューの“Power Off Control”の設定（☞48 ページ）が“ON”になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

- **メニューの“HDMI Control”を“ON”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの“Power Off Control”を“OFF”（☞48 ページ）に設定している場合は、接続している機器の電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- 次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 6、7 をおこなってください。
  - メニューの“HDMI Setup”（☞48 ページ）の設定の変更
  - HDMI で接続している機器の変更や機器の追加

5 テレビの音声やディスクを再生する

テレビの音声を再生する

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする（☞17 ページ）。

2 メニューの“Genre Auto Surr.”（☞48 ページ）を“ON”に設定する。

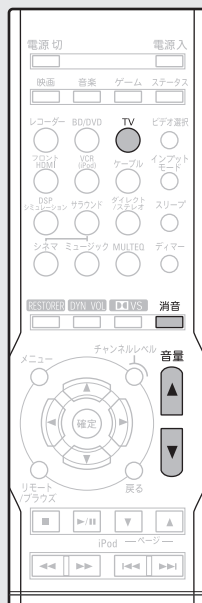
視聴している番組に合わせて、自動的にサラウンドモードを切り替えます（☞34 ページ「ジャンルオートサラウンド機能」）。

3 視聴するテレビ番組を選ぶ。

- テレビの操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

4 音量を調節する。

音量 ▲……………………音量を上げる
音量 ▼……………………音量を下げる
消音 ……………………一時的に音を消す

- お買い上げ時の音量レベルは「15」です。

ご注意

「HDMIコントロール機能を設定する」（☞17 ページ）の設定をおこなっていない場合は、HDMI コントロール機能による入力ソースの切り替えができません。その場合は、入力ソース選択ボタン（**TV** または **BD/DVD**）を押して入力ソースを切り替えてください。

ディスクを再生する

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする（☞17 ページ）。

2 **BD/DVD** を押してから、本機と接続した機器を再生する。

あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

3 音量を調節する。

音量 ▲……………………音量を上げる
音量 ▼……………………音量を下げる
消音 ……………………一時的に音を消す

- お買い上げ時の音量レベルは「15」です。

4 リスニングモードを設定する。

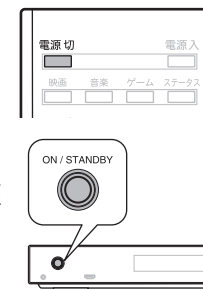
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください（☞28 ページ「リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）」）。

電源をスタンバイ状態にするとき

電源 切 を押す。

- 本機の電源表示が赤色に点灯します。

✎

本体の **ON/STANDBY** を押しても、電源をスタンバイ状態にできます。

ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、微量な電力を消費します。すべての電力を完全に遮断するときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

Basic version

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

❑それぞれのメディアや外部機器の接続と再生のしかたは、次のページをご覧ください。

音声および映像	接続のしかた	再生のしかた
テレビ	22、23 ページ	–
ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー	22 ページ	26 ページ
セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）	23 ページ	–
ゲーム機	22 ページ	–
iPod 用コントロールドック	24 ページ	26 ページ
ビデオデッキ	24 ページ	–
ブルーレイディスク /DVD/HDD レコーダー	22、24 ページ	–
音声	**接続のしかた**	**再生のしかた**
アンプ内蔵サブウーハー	25 ページ	–

スピーカーの接続については、10 ページをご覧ください。

接続のしかた

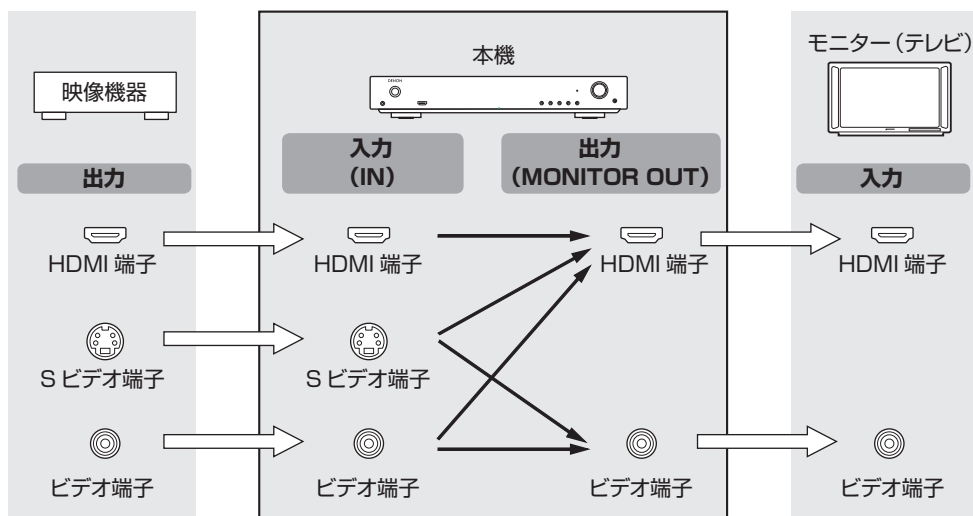
知っておいてほしいこと

- **この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法を選んでください。**
- **接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。**
- **お使いになる機器に合わせて、別売りのケーブルをご用意ください。**

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には3種類（HDMI、Sビデオ、ビデオ）の映像入力端子と2種類（HDMI、ビデオ）の映像出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からテレビに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M およびPAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- HDMI対応テレビの解像度は、“HDMI Monitor Information”（☞44ページ）で確認することができます。

ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しないことがあります。

入門編 基本編 応用編 情報編

映像入力信号による画面表示のしかた

メニューや状態の画面表示のしかたは、本機に入力される映像信号の種類によって異なります。

❑HDMI 端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：黒背景の画面に切り替わり、メニューを重ねて表示します。
- **状態表示**：表示しません。

❑S ビデオ端子またはビデオ端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：再生中の映像にメニューを重ねて表示します。
- **状態表示**：表示します。

画面表示の例

- メニュー画面

```
MENU

1. Parameter
2. Information
3. Auto Setup
4. Manual Setup
5. Input Setup

[ENT]:Select
```

- 状態表示画面

入力ソース切り替え時

```
       [Auto]
IN   :DVD
MODE:STEREO
```

音量調節時

```
Master Volume 15
```

状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時、一時的に画面に操作状態を表示します。

HDMI 接続について

本機とテレビ、および本機とプレーヤーやレコーダーなどの映像機器を HDMI ケーブルで接続すると、高解像度のデジタル映像信号やブルーレイディスクの HD デジタルオーディオフォーマットの音声信号を伝送し、高品質な映像と音声の再生をお楽しみいただけます。
また、HDMI ケーブルで接続することで次のさまざまな機能もお楽しみいただくことができます。

❑HDMI 機能について

HDMI コントロール機能（☞17 ページ）

外部機器から本機を操作することができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビ、ブルーレイディスクプレーヤーおよび DVD プレーヤーでは動作しません。

ARC（Audio return channel）機能

ARC（Audio return channel 機能）とは、HDMI 接続している機器同士の音声信号を相互に伝送する機能です。これにより、テレビからの音声信号を HDMI ケーブル経由で本機に伝送します。
音声ケーブルを接続しなくても本機でテレビの音声を再生することができます。

- ARC 機能は、メニューの“HDMI Control”の設定（☞48 ページ）が“ON”のときに有効です。
- ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルの他に音声ケーブルが必要になります。このときの接続方法は、「HDMIケーブル以外でテレビを接続する」（☞23 ページ）をご覧ください。

ジャンルオートサラウンド機能

視聴しているテレビ番組のジャンルに合わせて、自動的にサラウンドモードを切り替えます。
詳しくは、“Genre Auto Surr.”☞48 ページをご覧ください。

ご注意

テレビが放送番組に応じてサラウンドモードを自動的に切り替える機能に対応していないときは、この機能ははたらきません。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

3D 機能

本機は、HDMI1.4a 規格の 3D（3 次元）映像信号の入力 / 出力に対応しています。3D 映像の再生には本機の他に、HDMI1.4a 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。

その他の HDMI 機能

- Deep Color（☞61 ページ）
- Auto Lip Sync（☞48 ページ）
- x.v.Color、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601color（☞61、62 ページ）

❑HDMI ケーブルについて

- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”をお使いください。
- ARC 機能を使用するときは、HDMI1.4a 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。

❑著作権保護システム（HDCP）について

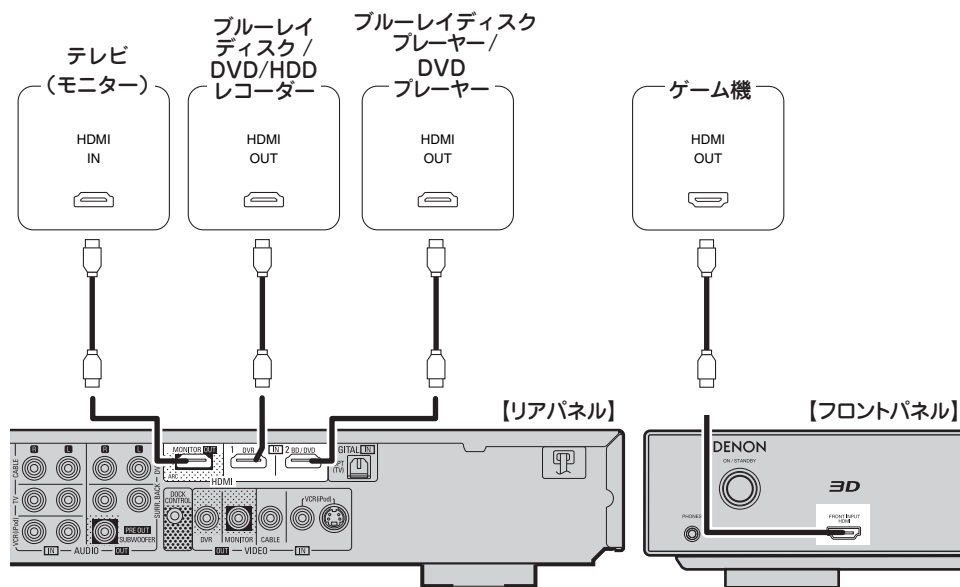
HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、AV アンプとテレビ、AV アンプとプレーヤーなどの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI ケーブルで接続する

本機は 4 台の HDMI 対応機器を接続できます。

接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）	
HDMI ケーブル	

- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度は、テレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。

ご注意

- “HDMI Audio Out”（☞48 ページ）の設定が“Amp”のときにテレビの電源を切ると、音声が途切れる場合があります。
- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

DVI-D 端子付きのテレビ（モニター）に接続するとき

接続するテレビ（モニター）に HDMI 端子がなく、DVI-D 端子があるときは HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をお使いください。HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きのテレビ（モニター）に接続することができます。

ご注意

- HDMI/DVI 変換ケーブルで接続すると映像信号のみを出力し、音声信号は出力しません。
- HDCP（☞21 ページ）に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

❑HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

Input Setup（☞50 ページ）

選択している入力ソースに関する設定をします。

HDMI Setup（☞48 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- Auto Lip Sync
- HDMI Audio Out
- HDMI Control
- Standby Source
- Power Off Control
- Genre Auto Surr.

ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニター出力端子から音声を出力します。

HDMI ケーブル以外でテレビを接続する

本機と ARC 対応テレビを HDMI ケーブルで接続しているときは、この項目の接続は不要です。

- ARC 機能に対応していないテレビを HDMI ケーブルで接続しているときは、テレビの音声を本機で再生することはできません。その場合は、付属の光伝送ケーブルまたは別売りのオーディオケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力してください。詳しくは、「ARC（Audio return channel）機能」（☞21 ページ）またはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- HDMIケーブルの接続については、「HDMIケーブルで接続する」（☞22 ページ）をご覧ください。

ご注意

映像機器から HDMI ケーブルで本機に入力した映像信号を、本機から HDMI ケーブル以外の接続でテレビに出力することはできません。詳しくは、「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞20 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白） L （赤） R
音声ケーブル（付属）	
光伝送ケーブル	

- 付属の光伝送ケーブルを接続するときは、先端の保護キャップをはずしてください。
- 光伝送ケーブルは本機のデジタル音声端子の形状に合わせて、奥までしっかりと差し込んでください。

セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）を接続する

- 衛星チューナーやケーブルテレビチューナーの映像を楽しむことができます。
- 本機とセットトップボックスを HDMI ケーブルで接続しているときは、この項目の接続は不要です。
- HDMIケーブルの接続については、「HDMIケーブルで接続する」（☞22 ページ）をご覧ください。

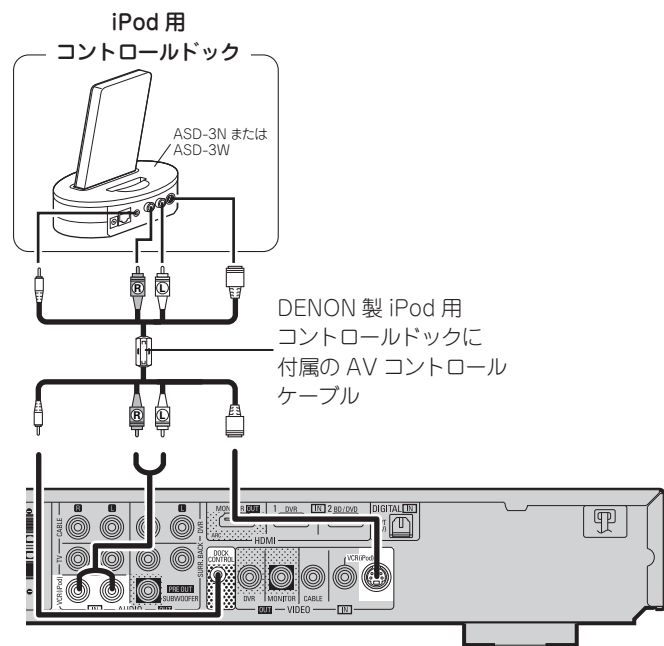
ご注意

セットトップボックスから HDMI ケーブルで本機に入力した映像信号を、本機から HDMI ケーブル以外の接続でテレビに出力することはできません。詳しくは、「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞20 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白） L （赤） R

iPod 用コントロールドックを接続する

- iPod 用コントロールドックを接続すると、iPod の映像や音声を楽しむことができます。
- 本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）をお使いください。
- iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

必要に応じて設定してください

S ビデオケーブルをお使いのときは、“Input Setup” ⇨ “Video In”（☞50 ページ）を “S-VIDEO” に設定してください。

✎ お買い上げ時の設定では、設定を変更せずに iPod 用コントロールドックを VCR（iPod）の S 端子に接続してお使いいただけます。

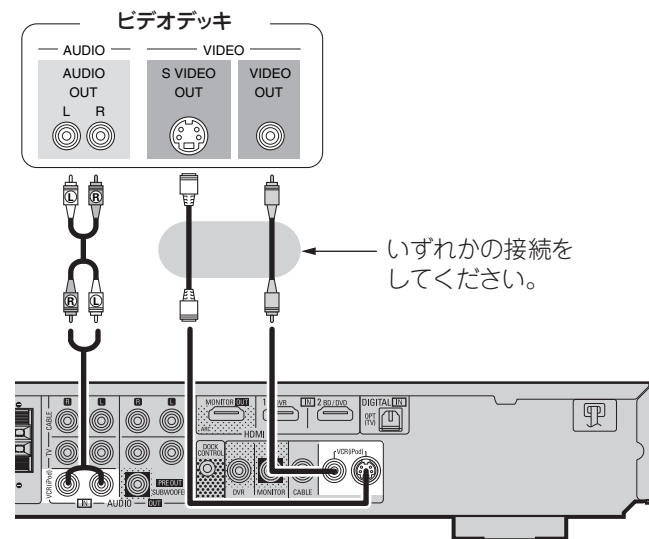
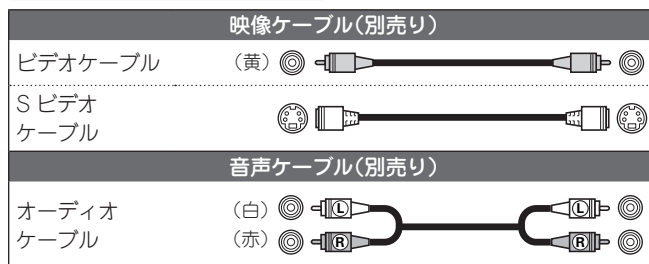
ご注意

iPod 用の入力端子と VCR 用の入力端子は兼用です。両方を同時に接続することはできません。

ビデオデッキ（アナログ）を接続する

- アナログ機器の映像や音声を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
S ビデオケーブル	
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）（赤）

必要に応じて設定してください

ビデオケーブル（黄）をお使いのときは、“Input Setup” ⇨ “Video In”（☞50 ページ）を “COMPOSITE” に設定してください。

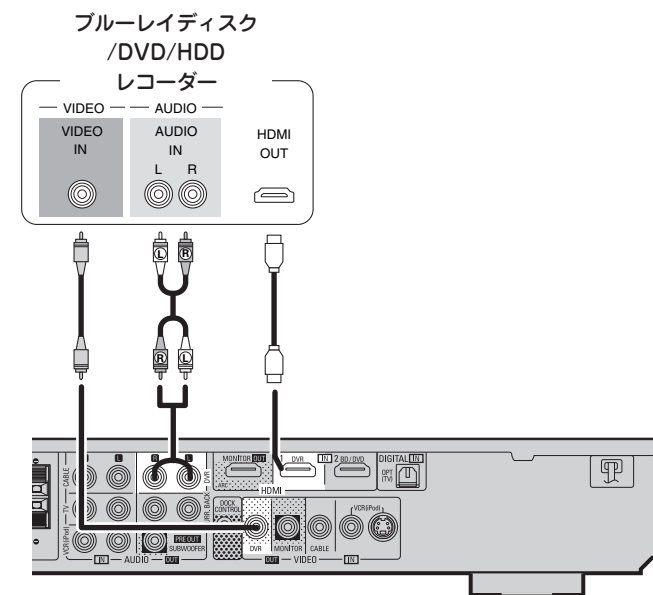
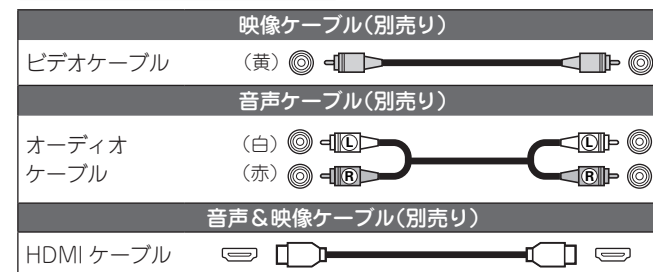
ご注意

iPod 用の入力端子と VCR 用の入力端子は兼用です。両方を同時に接続することはできません。

ブルーレイディスク /DVD/HDD レコーダー（デジタル）を接続する

- 映像や音声を録画や録音することができます。
- ブルーレイディスク /DVD/HDD レコーダーからの入力には HDMI 端子をお使いください。（☞22 ページ「HDMI ケーブルで接続する」）

接続に使用するケーブル

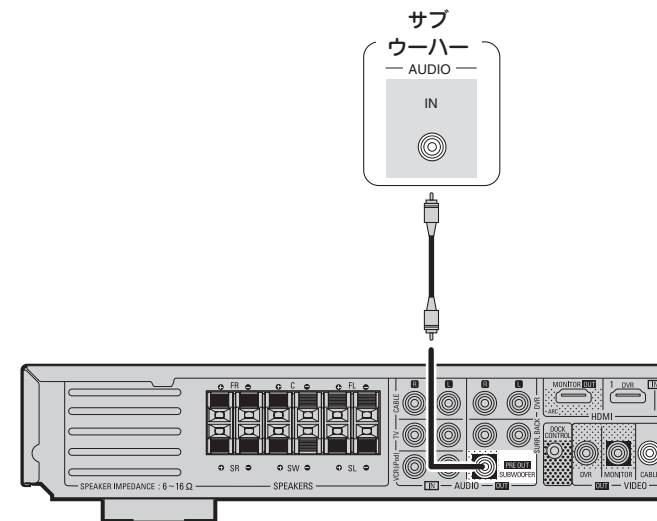
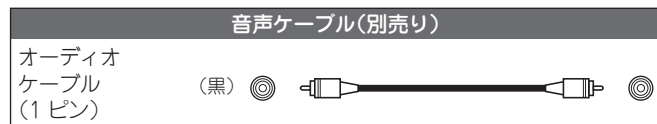
映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）（赤）
音声＆映像ケーブル（別売り）	
HDMI ケーブル	

ご注意

- 本機に入力している映像信号を本機に接続しているレコーダーに出力して録画をするときは、映像入力にアナログケーブルをお使いください。
- デジタルで入力した信号を、DVR 出力端子（アナログ）から出力することはできません。

アンプ内蔵サブウーハーを接続する

本機に付属のサブウーハーの代わりに、お手持ちのアンプ内蔵サブウーハーをお使いになることができます。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル（別売り）
オーディオケーブル（1 ピン）　（黒）

❑設定について

次の設定ができるサブウーハーをお使いの場合のみ、この設定をおこなってください。

ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合

ダイレクトモード機能を“オン”に設定し、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合

次のように設定してください。
- **音量の設定**：“12 時”の位置
- **クロスオーバー周波数の設定**：“最大 / 最高周波数”
- **ローパスフィルターの設定**：“オフ”
- **スタンバイモードの設定**：“オフ”

ご注意

本機に付属のサブウーハーとお手持ちのアンプ内蔵サブウーハーのどちらかひとつをお使いください。一緒にお使いになるとオートセットアップのときにサブウーハーの測定と解析が正しくおこなわれない場合があります。

再生のしかた（基本操作）

知っておいてほしいこと

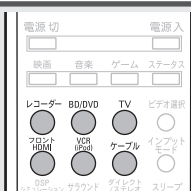
再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

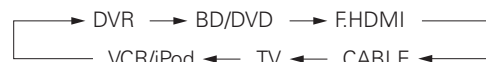
ご注意

再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

入力ソースを選ぶ

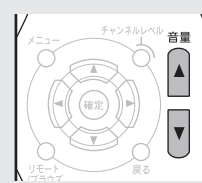
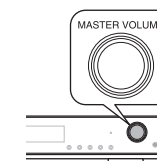
再生する入力ソース選択ボタン（レコーダー、BD/DVD、TV、フロントHDMI、VCR (iPod)、ケーブル）を押す。

入力ソースがダイレクトに切り替わります。

本体の **SOURCE** を押しても、入力ソースを選べます。

ボタンを押すたびに、次の順序で切り替わります。

主音量を調節する

音量 ▲▼ を押して、音量を調節する。

【調節できる範囲】 0 ~ 99

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

本体の **MASTER VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）

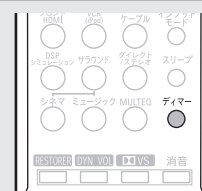
消音 を押す。

メニューの“Mute Lev.”（☞49ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。

- ミューティングを解除するときは、もう一度 **消音** を押してください。主音量を調節しても解除できます。

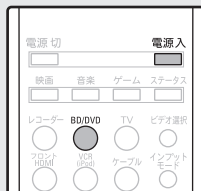
ディスプレイの明るさを切り替える（ディマー）

ディマー を押す。

- ボタンを押すたびに、次の順序で明るさが切り替わります。

ブルーレイディスクプレーヤーやDVD プレーヤーを再生する

1 **再生の準備をする。**
① テレビとプレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 **電源 入 を押す。**
本機の電源がオンになります。

3 **BD/DVD を押す。**
本機の入力ソースが“BD/DVD” に切り替わります。

4 **ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。**

- あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

iPod® を再生する

別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-11R、ASD-3N、ASD-3W）をお使いになると、iPod の映像、写真、音楽などの再生ができます。

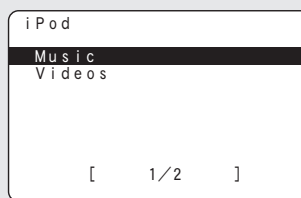
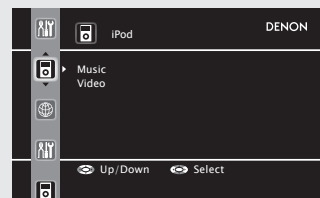
iPod® の音楽を聴く

1 **再生の準備をする。**
① DENON製iPod用コントロールドックを本機に接続する（☞24 ページ「iPod用コントロールドックを接続する」）。
② iPod用コントロールドックにiPod®をセットする。

2 **電源 入 を押す。**
本機の電源がオンになります。

3 **VCR(iPod) を押す。**
本機の入力ソースが“VCR/iPod” に切り替わります。

- S ビデオケーブルをお使いのときは、“Input Setup” ⇨“Video In” （☞50 ページ）を“S-VIDEO” に設定してください。（お買い上げ時の設定は“S-VIDEO”です。）
- 手順 4 で“ブラウズモード” を選ぶと、テレビに次の画面を表示します。

【ASD-11R 使用時 】

【ASD-3N/ASD-3W 使用時 】

- “ブラウズモード”のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。
- お使いになる iPod によって、画面の表示は変わります。

ご注意

画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

4 **リモート / ブラウズ を押して、表示モードを選ぶ。**

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード

- iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。
- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード

- iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。
- 本機のディスプレイに“Remote iPod” または“Dock Remote”を表示します。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	写真ファイル		✓ ＊
	動画ファイル	✓	✓ ＊
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod®		✓

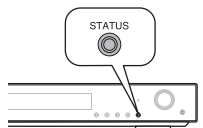
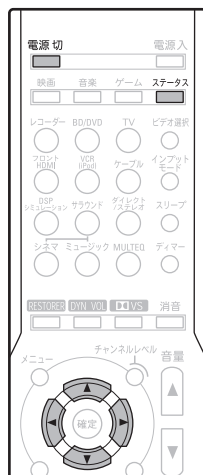
＊ DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

5 **△▽ を押して項目を選び、確定 または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。**

6 **確定 または ▷ を押す。**
再生をはじめます。

- メニューの“iPod Info.”(☞49ページ)で、iPod 画面の表示時間(お買い上げ時の設定：30 秒)を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます(☞43 ページ)。お買い上げ時は、“Mode 3” に設定しています。
- ブラウズモードの再生中にリモコンの **ステータス** または本体の **STATUS** を押すと、再生中のタイトル名、アーティスト名、アルバム名や、リピートモードとシャッフルモードの設定状態を確認できます。

ご注意

- iPod は、**電源 切** を押して本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取りはずしてください。入力ソースを“VCR/iPod”以外に切り替えて、iPod を取り外すこともできます。
- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

リモートモードで iPod® の写真や映像を見る

本機では、スライドショーやビデオ機能を搭載している iPod の写真や映像を再生できます。

1 リモート / ブラウズ 押して、リモートモードに切り替える。

本機のディスプレイに
“Remote iPod”または
“Dock Remote”を表示します。

2 iPod の画面を見ながら △▽ を押して、“写真” または“ビデオ”を選ぶ。

- 使用する iPod によっては、iPod 本体を直接操作する必要があります。

3 再生したい写真または映像が表示されるまで、確定 を押す。

iPod の写真や映像をテレビに映し出すには、iPod の“スライドショー設定” または“ビデオ設定” の“TV 出力” を“オン” に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

❑iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
メニュー	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
確定	確定
ページ ▲ ▼	ページ切り替えモード ＊
リモート / ブラウズ	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
戻る	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ(早戻し / 早送り)
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ(頭出し)
▶/II	再生 / 一時停止
■	停止
RESTORER	RESTORER

- **リピート再生**(☞51 ページ “Repeat”)
- **シャッフル再生**(☞51 ページ “Shuffle”)

＊ ASD-11R を“ブラウズモード” で使用しているときは、**ページ ▲** を押してから ◁ ▷ でページ切り替えをします。

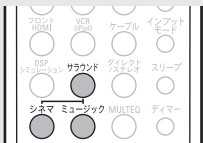
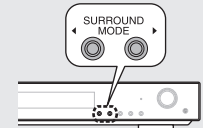
リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）

本機は、本機に入力される音声信号を、マルチチャンネルサラウンドやステレオで再生することができます。
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください。

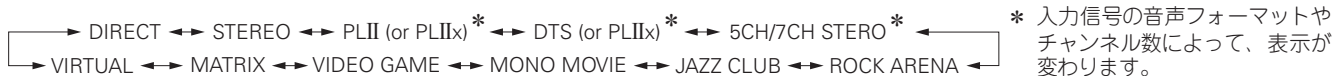
リスニングモードについて

入力音声信号	再生	リスニングモード	
2 チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	サラウンド ⇨	サラウンド再生 （☞28 ページ）	【2 チャンネル信号を入力しているとき】 • サラウンドチャンネルの信号を生成してサラウンド再生をします。 【マルチチャンネル信号を入力しているとき】 • ソースに収録されているサラウンド信号のままサラウンド再生をします。（メニューの“Speaker Config.”（☞45 ページ）のスピーカーサイズの設定に合わせて再生します。） • ソースに収録されていないサラウンドバックチャンネルの信号を生成することもできます。
2 チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	サラウンド ⇨	DENON オリジナルサラウンド再生 （☞30 ページ）	DENON オリジナルサラウンドモードの中から、ソースの種類やお好みに合わせたサラウンド効果を選んで再生することができます。
2 チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	ステレオ ⇨	ステレオ再生 （☞30 ページ）	• マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。 • サブウーハー信号も出力します。
2 チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	ステレオ ⇨ サラウンド ⇨	ダイレクト再生 （☞30 ページ）	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。 • サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。 • このモードのとき、次の設定はできません。 • Tone（☞41 ページ） • MultEQ®（☞42 ページ） • Dynamic EQ®（☞42 ページ） • Dynamic Volume®（☞43 ページ） • RESTORER（☞43 ページ）
2 チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	バーチャルサラウンド ⇨	ドルビーバーチャルスピーカー再生（☞30 ページ）	• 2 チャンネルまたはマルチチャンネルの入力信号に対して、仮想サラウンド処理をおこない再生します。

• 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。選択できない場合は、フロントパネルのディスプレイに“Not Available”を表示します。詳しくは「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」（☞59 ページ）をご覧ください。
• メニューの“Surround Parameter”（☞39 ページ）で音場効果を調整すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。
• リスニングモードはリモコンまたは本体のボタンを押して操作できます。

【リモコンで操作する場合】 **サラウンド**、**DSP シミュレーション** または **ダイレクト / ステレオ** のいずれかを押してリスニングモードを切り替えます。

【本体で操作する場合】 **SURROUND MODE ◀ / ▶** を押すたびに、次の順序でリスニングモードが切り替わります。

→ DIRECT ↔ STEREO ↔ PLII (or PLIIx)* ↔ DTS (or PLIIx)* ↔ 5CH/7CH STERO* ↔
→ VIRTUAL ↔ MATRIX ↔ VIDEO GAME ↔ MONO MOVIE ↔ JAZZ CLUB ↔ ROCK ARENA ↔

＊ 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によって、表示が変わります。

サラウンド再生

このモードはお使いのシステムが 5.1 チャンネルや 7.1 チャンネルのマルチチャンネルシステムのときにお楽しみいただけます。

❑2 チャンネルのソースをサラウンド再生する

1 **機器を再生する（☞26、27 ページ）。**

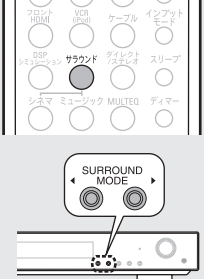
2 **リモコンの サラウンド または本体の SURROUND MODE ◀ ▶ を押して、2 チャンネル信号からマルチチャンネル音声を生成するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。**

• ディスプレイ表示を見ながらサラウンドモードを選んでください（☞29 ページ「再生中のサラウンドモードの表示」）。
• 選択できるデコーダーは、入力信号やメニューの“Speaker Config.”（☞45 ページ）の設定によって異なります。

DOLBY PLIIx ＊ サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネルまたは 6.1 チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
• “PLIIx Cinema”、“PLIIx Music” または “PLIIx Game”を表示します。

DOLBY PLII 5.1 チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。フロントハイトスピーカーやサラウンドバックスピーカーを使用しないときに選びます。
• “PLII Cinema”、“PLII Music”、“PLII Game”または“Pro Logic”を表示します。

DTS NEO:6 サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネル、6.1 チャンネルまたは 5.1 チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
• “DTS NEO:6 Cinema” または“DTS NEO:6 Music”を表示します。

＊ メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”（☞46 ページ）の設定が“None”以外のときに選べます。

3 メニューの"Surround Parameter" ⇨"Mode"（☞39 ページ）で、再生するコンテンツに合わせたモードを選ぶ。

Cinema	映画ソースに適したモードです。
Music	音楽ソースに適したモードです。"Cinema" モードに比べてフロントスピーカーへの音の振り分けを多くしています。
Game	ゲームに適したモードです。
PL	Dolby Pro Logic で収録されている 2 チャンネルソースの再生に適したモードです。

• "Cinema" および"Music" は、リモコンの **シネマ** および **ミュージック** 押して選ぶこともできます。

❑マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する（ドルビーデジタル、DTS、AAC など）

1 機器を再生する（☞26、27 ページ）。

2 リモコンの **サラウンド** または本体の **SURROUND MODE ◀ ▶** を押して、マルチチャンネル音声を生成するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。

• ディスプレイ表示を見ながらサラウンドモードを選んでください（☞ 右表「再生中のサラウンドモードの表示」）。
• 選択できるデコーダーは、入力信号やメニューの"Speaker Config."（☞45 ページ）の設定によって異なります。

再生中のサラウンドモードの表示

入力信号	サラウンドモード処理	ディスプレイ表示
DOLBY DIGITAL（2 チャンネル以外）/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL	DOLBY DIGITAL
	DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL + PLIIx CINEMA	DOLBY D + PLIIx C
	DOLBY DIGITAL + PLIIx MUSIC	DOLBY D + PLIIx M
DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL +
	DOLBY DIGITAL Plus + EX	DOLBY D + + EX
	DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx CINEMA	DOLBY D + + PLIIxC
	DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx MUSIC	DOLBY D + + PLIIxM
DOLBY TrueHD*1	DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD
	DOLBY TrueHD + EX	DOLBY HD +EX
	DOLBY TrueHD + PLIIx CINEMA	DOLBY HD +PLIIx C
	DOLBY TrueHD + PLIIx MUSIC	DOLBY HD +PLIIx M
DTS（5.1 チャンネル）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND	DTS SURROUND
	DTS + PLIIx CINEMA	DTS + PLIIx C
	DTS + PLIIx MUSIC	DTS + PLIIx M
	DTS + NEO:6	DTS + NEO:6
	DTS ES MTRX6.1*2	DTS ES MTRX6.1
	DTS ES DSCRT6.1*3	DTS ES DSCRT6.1
	DTS 96/24*4	DTS 96/24
DTS-HD	DTS-HD HI RES	DTS-HD HI RES
	DTS-HD MSTR	DTS-HD MSTR
	DTS-HD + NEO:6	DTS-HD + NEO:6
	DTS-HD + PLIIx CINEMA	DTS-HD + PLIIx C
	DTS-HD + PLIIx MUSIC	DTS-HD + PLIIx M
MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	MPEG2 AAC
	AAC + Dolby EX	AAC + Dolby EX
	AAC + PLIIx CINEMA	AAC + PLIIx C
	AAC + PLIIx MUSIC	AAC + PLIIx M
PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH IN	MULTI CH IN
	MULTI IN + Dolby EX	MULTI +Dolby EX
	MULTI IN + PLIIx CINEMA	MULTI IN +PLIIx C
	MULTI IN + PLIIx MUSIC	MULTI IN +PLIIx M
	MULTI CH IN 7.1	MULTI CH IN 7.1

*1 HD AUDIO 信号が入力されたときに、"DD TrueHD" 表示が点灯します。
*2 入力信号が"DTS-ES Matrix 6.1" で、メニューの"AFDM" 設定（☞40 ページ）が"ON" のときに表示します。
*3 入力信号が"DTS-ES Discrete 6.1" のときに表示します。
*4 入力信号が"DTS 96/24" のときに表示します。

【ディスプレイ表示について】

❶ 使用するデコーダーをあらわします。
• DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、"DOLBY D +" と表示します。

❷ サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。

各サラウンドモードのときに再生できる入力信号については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞57 ページ）をご覧ください。

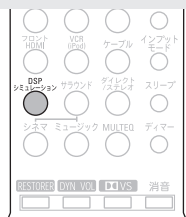
AAC ソースの再生について

• AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
• テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が"オフ" になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DENON オリジナルサラウンド再生

1 **機器を再生する**
(☞26、27 ページ)。

2 **DSP シミュレーション を押して、サラウンドモードを選ぶ。**

- ボタンを押すたびに、サラウンドモードが切り替わります。

5CH/7CH STEREO	＊1	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
ROCK ARENA		アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
JAZZ CLUB		ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
MONO MOVIE	＊2	モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。
VIDEO GAME		ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。
MATRIX		ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
VIRTUAL	＊1	フロントスピーカーでサラウンド効果を楽しむモードです。

＊1 スピーカーの設定が 2.1 チャンネルの場合は選択できません。
ヘッドホン使用時は選択できません。
＊2 モノラル録音ソースを "MONO MOVIE" モードで再生する場合、片チャンネル(左または右)では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ご注意

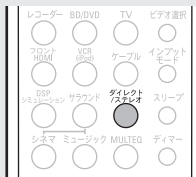
入力信号が Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD の場合、DENON オリジナルサラウンドモードは選べません。

ステレオ再生

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。

- フロントスピーカー(左 / 右)とサブウーハーから音声を出力します。
- マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

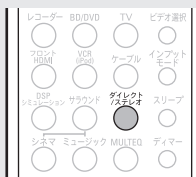
1 **機器を再生する**
(☞26、27 ページ)。

2 **ダイレクト / ステレオ を押して、"STEREO"を選ぶ。**
ステレオ再生をはじめます。

ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

- "Small" に設定しているスピーカーには低音域成分を含まない信号を出力します。このモードを十分にお楽しみいただくためには、低音域の再生能力のあるスピーカーをお使いください。
- サラウンドバック信号を生成しません。
- このモードのとき、次の設定ができません。
  - Tone(☞41 ページ)
  - MultEQ®(☞42 ページ)
  - Dynamic EQ®(☞42 ページ)
  - Dynamic Volume®(☞43 ページ)
  - RESTORER(☞43 ページ)

1 **機器を再生する**
(☞26、27 ページ)。

2 **ダイレクト / ステレオ を押して、"DIRECT"を選ぶ。**
ダイレクト再生をはじめます。

ダイレクト再生中の表示

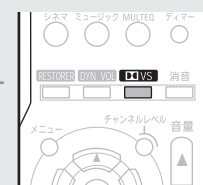
入力信号	ディスプレイ表示内容
アナログ信号 PCM (2ch) Dolby Digital ソース DTS ソース その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT
PCM (multi ch)	MULTI CH DIRECT
	M DIRECT + PLIIx CINEMA
	M DIRECT + PLIIx MUSIC
	M DIRECT 7.1

ドルビーバーチャルスピーカー再生

2 本のステレオスピーカーでバーチャル化されたサラウンド音声を楽しむことができます。
このモードはお使いのシステムが 2.0 チャンネルや 2.1 チャンネルのステレオシステムのときにお楽しみいただけます。

- フロントスピーカー(左 / 右)から音声を出力します。
- マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

1 **機器を再生する**
(☞26、27 ページ)。

2 **DD VS を押してモードを選ぶ。**
本体のドルビーバーチャルスピーカー表示が点灯します。

Ref	リファレンスモード。 ドルビーバーチャルスピーカーの標準モードです。
Wide	ワイドモード。 広がり感を強調したモードです。

応用編

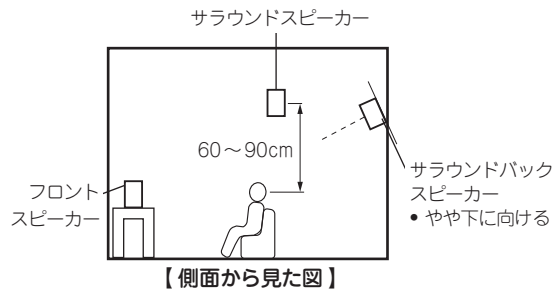
ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

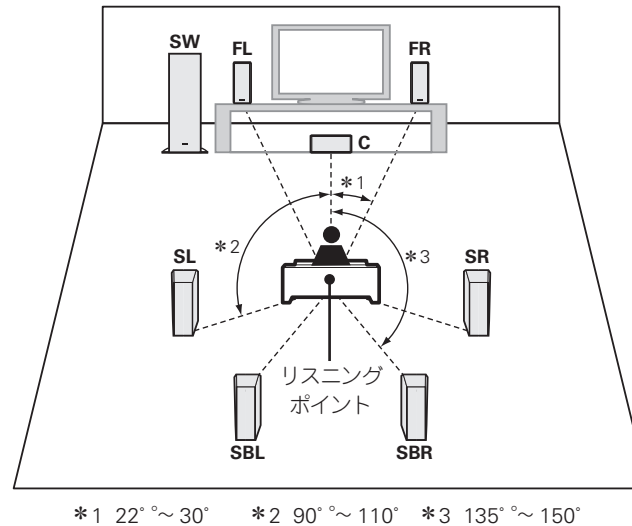
スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1/6.1 チャンネル）

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1/6.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法は、「入門編（かんたんセットアップガイド）」（☞7 ページ）をご覧ください。
本機の Audyssey® Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、お使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

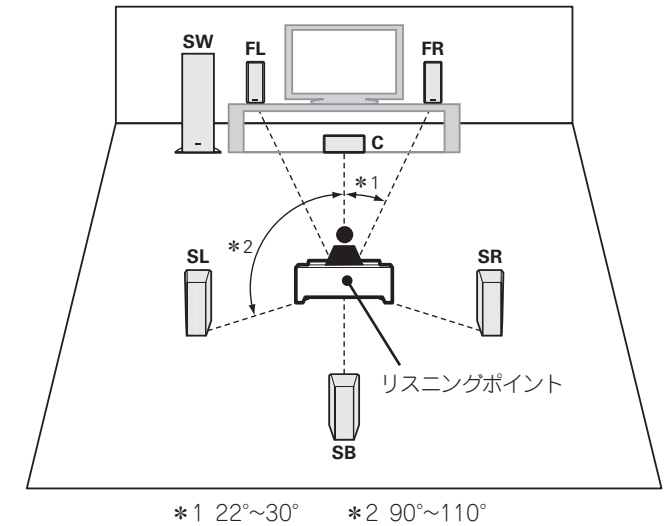
設置

サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60 〜 90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【側面から見た図】

7.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき

＊1 22° 〜 30°　＊2 90° 〜 110°　＊3 135° 〜 150°

5.1 チャンネルサラウンドシステムにお手持ちの２チャンネルパワーアンプとサラウンドバックスピーカー２本を加えて、7.1 チャンネルシステムに拡張できます。サラウンドバックスピーカーの追加により、より臨場感豊かにサラウンド再生をお楽しみいただけます。
この方法では、ブルーレイディスクに 7.1 チャンネルで収録されている Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio の音声をそのまま再生できます。

6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき

＊1 22°〜30°　＊2 90°〜110°

5.1 チャンネルサラウンドシステムにお手持ちのパワーアンプとサラウンドバックスピーカー１本を加えて、6.1 チャンネルシステムに拡張できます。サラウンドバックスピーカーの追加により、より臨場感豊かにサラウンド再生をお楽しみいただけます。

- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合（6.1 チャンネル接続時）は、本機の SURR.BACK 端子の“L” 側にパワーアンプを接続してください。

各スピーカーの略称について

FL	フロントスピーカー（L）	SL	サラウンドスピーカー（L）
FR	フロントスピーカー（R）	SR	サラウンドスピーカー（R）
C	センタースピーカー	SBL	サラウンドバックスピーカー（L）
SW	サブウーハー	SBR	サラウンドバックスピーカー（R）
		SB	サラウンドバックスピーカー

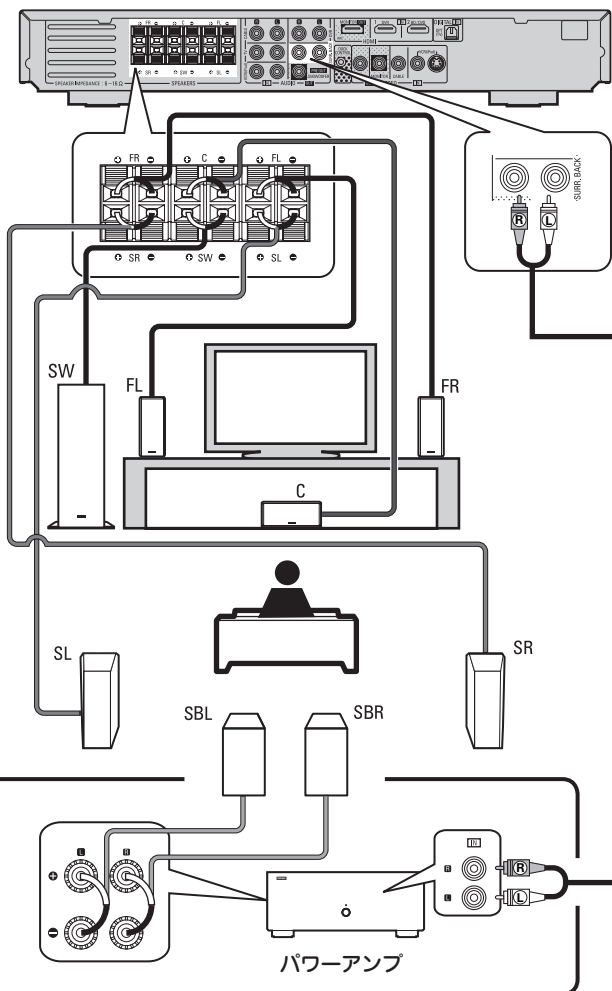
スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、10 ページをご覧ください。

接続

- 2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの接続方法は、10 ページをご覧ください。
- テレビの接続方法は、11 ページをご覧ください。

7.1 チャンネル /6.1 チャンネル(サラウンドバックスピーカー)接続

- この接続には別売りのパワーアンプが必要です。
- サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルまたは 6.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「スピーカーを設定する」(☞33ページ)で“Speaker Assign”を“7.1ch”に設定してください。
- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合 (6.1 チャンネル接続時) は、本機の SURR.BACK 端子の“L”側に接続してください。このときのスピーカー設置については、「6.1 チャンネル(サラウンドバックスピーカー)を設置するとき」(☞32 ページ) をご覧ください。

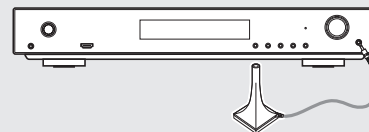
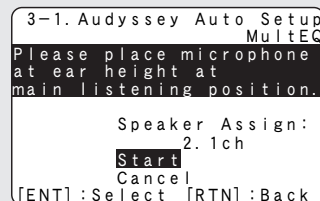
サラウンドバックスピーカーの再生をおこなうときは、本機のプリアウト端子にパワーアンプ(別売り)を接続してお使いください。

スピーカーを設定する

[ ] で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設定方法を説明しています。

2.1 チャンネルと 5.1 チャンネルの設定方法は、入門編の「スピーカーを設定する(Audyssey® Auto Setup)」(☞12 ページ) をご覧ください。

あらかじめスピーカーを設置し、本機とスピーカーを接続してください。

1 セットアップマイクを接続する。

セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

2 △▽ を押して、“Speaker Assign”を選ぶ。

3 ◁ ▷ を押して、接続したスピーカーの設定を選ぶ。

2.1ch	2.1 チャンネル(フロント / サブウーハー) スピーカーを接続して使用するときに選びます。
5.1ch	5.1 チャンネル(フロント / センター / サラウンド / サブウーハー) スピーカーを接続して使用するときに選びます。
7.1ch	7.1 チャンネルまたは 6.1 チャンネル(フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック / サブウーハー) スピーカーを接続して使用するときに選びます。

5 13ページの“準備”手順5へ進む。

Step 1 から Step 5 までの手順をおこない、設定を完了します。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

便利な機能

再生中の音声を変えずに他の入力ソースの映像を再生する（ビデオセレクト機能）

入力ソースが“CABLE”、“TV” または“VCR/iPod” のときに、音声はそのままにして、映像だけをお好みの入力ソースに切り替えることができます。

再生したい映像が表示されるまで ビデオ選択 を押す。

- 解除する場合は、**ビデオ選択** で“SOURCE”を選んでください。

ご注意

HDMI 入力信号は選べません。

ジャンルオートサラウンド機能

本機と HDMI 接続しているテレビで受信している番組（デジタル放送）の EPG（電子番組表）の情報を読み取り、視聴しているテレビ番組のジャンルに合わせて、サラウンドモードを自動で切り替えることができます。

- お好みのサラウンドモードに切り替えると、そのとき視聴していたテレビ番組のジャンルと同じジャンルの番組では、同じサラウンドモードに切り替わります。
- 本機では、ジャンルを次の 5 種類に分けています。

本機のジャンル	テレビ番組のジャンル	初期設定
TV PROGRAM	ニュース・情報・バラエティ等	DVS+PLIIx Cinema
DRAMA	ドラマ	DVS+PLIIx Cinema
SPORTS	スポーツ	ROCK ARENA
CINEMA	映画	DVS+PLIIx Cinema
MUSIC	音楽	DVS+PLIIx Music

テレビも放送番組に応じてサラウンドモードを自動的に切り替える機能に対応していることが必要です。
テレビの対応メーカー：東芝、日立（2010 年 10 月現在）

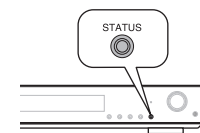
1 テレビの入力を、本機を接続している HDMI 入力に切り替えてメニュー画面を表示させる。

- メニューの操作のしかたは、45 ページをご覧ください。

2 メニューの“HDMI Control”（☞48 ページ）を“ON”に設定する。

3 メニューの“Genre Auto Surr.”（☞48 ページ）を“ON”に設定する。

4 TV を押す。
本機の入力ソースが“TV” に切り替わります。

- 現在視聴しているテレビ番組のジャンルは、リモコンの **ステータス** または本体の **STATUS** を押すと確認できます。
- ジャンルオートサラウンド機能は、テレビに接続されているレコーダーで録画したテレビ番組にも対応します。

ARC（Audio return channel）機能

HDMI 1.4a の ARC 機能では、テレビからの音声信号を HDMI ケーブル経由で伝送することができます。これにより、音声ケーブルを接続しなくても本機でテレビの音声を再生することができます。

テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

1 テレビの入力を、本機を接続している HDMI 入力に切り替えてメニュー画面を表示させる。

- メニューの操作のしかたは、45 ページをご覧ください。

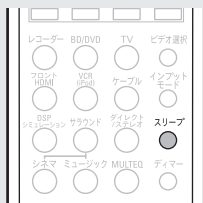
2 メニューの“HDMI Control”（☞48 ページ）を“ON”に設定する。

3 TV を押す。
本機の入力ソースが“TV” に切り替わります。

スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。
視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

スリープ を押して、スリープ時間を設定する。
ディスプレイの“**SLEEP**”表示が点灯します。

• **スリープ** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。

残り時間を確認するとき

スリープ を 1 回押す。
約 5 秒間残り時間を表示します。

スリープタイマーを解除するとき

スリープ を押して、“OFF”を選ぶ。
ディスプレイの“**SLEEP**”表示が消灯します。

本機の電源がスタンバイまたはオフになると、スリープタイマーの設定は解除されます。

チャンネルレベルを調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節ができます。

❑スピーカーごとにチャンネルレベルを調節する

1 リモコンの チャンネルレベル または本体の CH.SELECT を押して、調節したいスピーカーを選ぶ。

• ボタンを押すたびに、チャンネルが切り替わります。

• 入力ソースが“DVR”、“BD/DVD”または“F.HDMI”で、映像を出力中は上記画面は表示しません。

2 ◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。

• サブウーハーのチャンネルレベルを調節する場合、“–12dB”のときに ◁ を押すと、“OFF”の設定になります。

PHONES 端子にヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルを調節できます。

❑チャンネルレベルをまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーのチャンネルレベルをまとめて調節（減衰）します。

1 リモコンの チャンネルレベル または本体の CH.SELECT を押す。

2 ▽ を押して“Fader”を選び、◁ ▷ を押して調節するチャンネル（“FRONT”または“REAR”）を選ぶ。

3 ◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。
（◁：フロント側、▷：リア側）

• 一番小さい値に調節されているチャンネルレベルが、–12dB になるまで調節できます。

フェーダー機能は、サブウーハーチャンネルにははたらきません。

入門編
基本編
応用編
情報編

クイックセレクト機能

手順 1 の設定内容をまとめて記憶させせることができます。

- よく使う設定を **映画**、**音楽**、**ゲーム** ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。
- 3 通りの設定ができます。

❑記憶のさせかた

1 **次の設定項目を記憶させたい状態に設定する。**

① 入力ソース（☞25ページ）
② 音量（☞25ページ）
③ サラウンドモード（☞28ページ）
④ Video Select（☞34ページ）
⑤ Audyssey Setting
（MultEQ®、Dynamic EQ®、Dynamic Volume®）
（☞42ページ）

2 **ディスプレイに“Memory”が表示されるまで、**
映画、音楽 または ゲーム を長押しする。

現在の設定を記憶します。

【 お買い上げ時の設定 】

記憶させるボタン	入力ソース	音量レベル
映画	BD/DVD	15
音楽	BD/DVD	15
ゲーム	F.HDMI	15

❑呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている 映画、音楽 または ゲーム を押す。

各種メモリー機能

❑パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容（入力モード、HDMI 出力モード、 サラウンドモード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど）を入力ソースごとに記憶します。

サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

❑ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

❑バックアップメモリー機能

電源を切ったり電源コードを抜いたりした場合でも、各種設定を約 1 週間保持します。

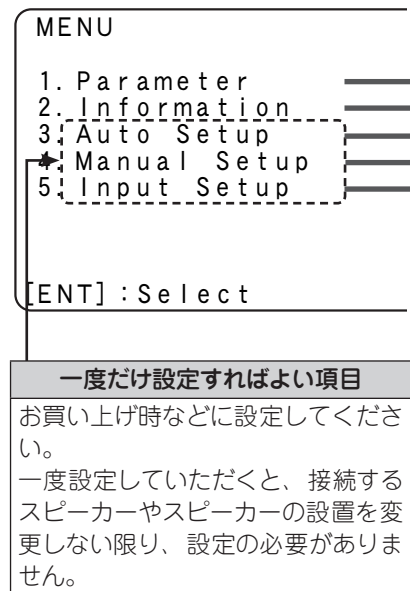
詳細設定のしかた

メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
メニューの操作のしかたは、右表の参照ページをご覧ください。

```
MENU

1. Parameter
2. Information
3. Auto Setup
4. Manual Setup
5. Input Setup

[ENT]:Select
```

一度だけ設定すればよい項目

お買い上げ時などに設定してください。
一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの設置を変更しない限り、設定の必要がありません。

設定項目	番号	詳細項目	内　容	参照ページ
1. Parameter 1. Audio Adjust 1. Surround Parameter 2. Tone Control 3. Audyssey Settings 4. RESTORER 5. Audio Delay [ENT]:Select [RTN]:Back	**1-1**	**Surround Parameter**	音場効果を調節します。	39
	1-2	**Tone Control**	トーンを調節します。	41
	1-3	**Audyssey Settings**	MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® を設定します。	42
	1-4	**RESTORER**	圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域の量感を補正して豊かに再生します。	43
	1-5	**Audio Delay**	映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。	43
2. Information 2. Information 1. Status 2. Audio Input Signal 3. HDMI Information 4. Auto Surround Mode 5. Quick Select [ENT]:Select [RTN]:Back	**2-1**	**Status**	現在の設定状態を表示します。	44
	2-2	**Audio Input Signal**	音声入力信号の情報を表示します。	44
	2-3	**HDMI Information**	HDMI の入出力信号やテレビの情報を表示します。	44
	2-4	**Auto Surround Mode**	オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	44
	2-5	**Quick Select**	クイックセレクト機能で記憶している内容を表示します。	44
3. Auto Setup 3. Auto Setup 1. Audyssey Auto Setup 2. Parameter Check [ENT]:Select	**3-1**	**Audyssey Auto Setup**	お使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。	12
	3-2	**Parameter Check**	Audyssey Auto Setup の測定結果を確認します。 この項目は、Audyssey Auto Setup をおこなった後に表示します。	17
4. Manual Setup 4. Manual Setup 1. Speaker Setup 2. HDMI Setup 3. Audio Setup 4. Option Setup [ENT]:Select [RTN]:Back	**4-1**	**Speaker Setup**	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	45
	4-2	**HDMI Setup**	HDMI の音声出力に関する設定をします。	48
	4-3	**Audio Setup**	音声の再生に関する設定をします。	48
	4-4	**Option Setup**	その他の設定をします。	49
5. Input Setup （例：TV） 5. Input Setup 1. Input Mode 2. Decode Mode 3. Source Level [ENT]:Select	**5-1**	**Video In**	VCR/iPod 映像入力端子の設定をします。	50
	5-2	**Input Mode**	入力モードとデコードモードを設定します。	51
	5-3	**Source Level**	音声入力の再生レベルを補正します。	51
	5-4	**iPod Playback Mode**	iPod の再生に関する設定をします。	51

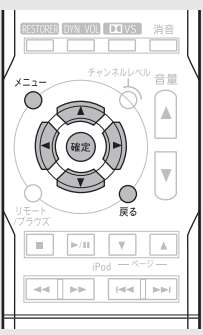
“Input Setup” メニューは、選択している入力ソースによって、表示内容が異なります。

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	ディスプレイ	説　明
トップメニューの表示	MENU 1 Parameter 2 Information 3 Auto Setup 4 Manual Setup 5 Input Setup [ENT]:Select	Parameter　1	❶ **メニュー** を押してメニュー画面を表示させます。 ❷ テレビ画面：選択中の行を示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 •テレビ画面で、設定した項目に移動させるときは、△▽ を押します。 ❸ 選択中の設定メニューの番号を表示します。
設定を変更するときの表示	1-2. Tone Tone Control　: ON Bass　: ◀ 0dB ▶ Treble　: 0dB [RTN]:Back	Bass :◀ 0dB ▶　2	❶ 選択中の設定メニューの番号を表示します。 ❷ テレビ画面:選択中の行を示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 •テレビ画面で、設定したい項目に移動させるときは、△▽◁ ▷ を押します。 ❸ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀ ▶ を表示します。◁ ▷を押して、設定を変更します。
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	4-1-4. Channel Level Test Tone Start Default [ENT]:Select [RTN]:Back	Default　414 確定 を押す。 Default? :◀ No　414	❶ 選択中の設定メニューの番号を表示します。 ❷ ▽を押して“Default”を選び、確定 を押して設定します。 **メニューに表示される操作ボタンガイドについて** • **[ENT]** は 確定 ボタンをあらわします。 • **[RTN]** は 戻る ボタンをあらわします。

音声を調整する（1.Parameter）

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞57ページ）をご覧ください。

ご注意

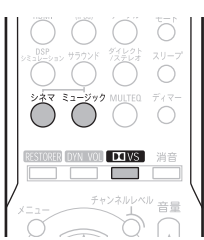
設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。

メニューの操作のしかた

1 メニュー ◯ **を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

2 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

3 確定 **を押して、設定を確定する。**

- 前の項目に戻るときは、戻る ◯ を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に メニュー ◯ を押してください。メニュー画面が消えます。

“Parameter”でできること

Surround Parameter

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音場効果を調節します。入力信号によっては、本設定ができない場合があります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞57 ページ）をご覧ください。

設定項目	設定内容
Mode 再生するソースに合わせてモードを選びます。	**スピーカー設定が 2.1 チャンネルのとき** ❑ **ドルビーバーチャルスピーカーモードのとき** **DOLBY VS** • **Ref**：ドルビーバーチャルスピーカーの標準モードです。 • **Wide**：広がり感を強調したモードです。 **Decode Mode**：2ch 信号を DVS 再生する場合のモードです。 • **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 • **Music**：音楽ソースに適したモードです。 **スピーカー設定が 2.1 チャンネル以外のとき** ❑ **PLⅡx または PLⅡ モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 **Game**：ゲームに適したモードです。 **PL**：ドルビープロロジック再生モードです（PLⅡ モードのみ）。 ❑ **DTS NEO:6 モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 • “Music” モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。 • “Cinema” および“Music” は、リモコンの **シネマ** および **ミュージック** をを押しても選べます。 • ドルビーバーチャルスピーカーの“Ref” および “Wide” は、リモコンの **DD VS** を押しても選べます。
Cinema EQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**ON**：“Cinema EQ”を使用します。 **OFF**：“Cinema EQ”を使用しません。
D.Comp **（ダイナミックレンジコンプレッション）** ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**Low**/**Mid**/**High**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。

次のページへ

リモコンの操作ボタン

メニュー ◯ メニューを表示する／メニューを解除する

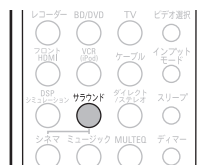
カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）

設定を確定する

ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
DRC（ダイナミックレンジコントロール） ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**Auto**：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。ドルビー TrueHD ソースのときに設定できます。 **Low**/**Mid**/**High**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
LFE 低域信号（LFE）レベルを調節します。	**-10dB～0dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • ドルビーデジタルソース：“0dB” • DTS の映画ソース：“0dB” • DTS の音楽ソース：“-10dB”
Center Image センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0～1.0（0.3）**
Panorama フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**ON**：設定します。 **OFF**：設定しません。
Dimension 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0～6（3）**
C. Width センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0～7（3）**
Delay Time 遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。	**0ms～300ms（30ms）**
Effect Lev. エフェクトレベルを調節します。	**1～15（10）** サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

設定項目	設定内容
Room Size 音場空間の大きさを設定します。	**Small**：小さな音場空間のイメージ **Medium-S**：やや小さな音場空間のイメージ **Medium**：標準的な音場空間のイメージ **Medium-L**：やや大きな音場空間のイメージ **Large**：大きな音場空間のイメージ ご注意 “Room Size”は、再生する部屋の大きさをあらわすものではありません。
AFDM（オートフラグディテクトモード） ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。	**ON**：設定します。 **OFF**：設定しません。 **【例】Dolby Digital ソフト（EX フラグあり）の再生** • “AFDM” を “ON” に設定すると、サラウンドモードは自動的に “DOLBY D+PLIIx C” モードになります。 • Dolby Digital EX モードで再生する場合は、“AFDM” を “OFF”、“Surround Parameter” ⇨ “S.Back”（☞41 ページ）を “MTRX ON” に設定してください。 Dolby Digital EX ソースには、EX フラグが含まれていないものがあります。“AFDM” を “ON” に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、メニューの “Surround Parameter” ⇨ “S.Back”（☞41 ページ）を “MTRX ON” または “PLIIx CINEMA” に設定してください。

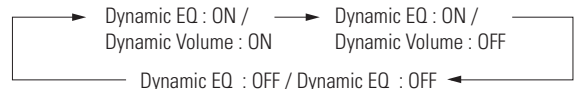
設定項目	設定内容
S.Back サラウンドバックチャンネルの生成方法を設定します。	❏ **2 チャンネルソースのとき** **ON**：サラウンドバックチャンネルを使用します。 **OFF**：サラウンドバックチャンネルを使用しません。 ❏ **マルチチャンネルソースのとき** サラウンドバックチャンネルのデコード方法を設定します。 **OFF**：サラウンドバックチャンネルを再生しません。 **MTRX ON**：サラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx C**＊1：Dolby Pro Logic Ⅱx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx M**＊2：Dolby Pro Logic Ⅱx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES MTRX**＊3：DTS ソースのサラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES DSCRT**＊4：6.1 チャンネルの DTS ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生します。 **DSCRT ON**＊4：7.1 チャンネルソースに含まれるサラウンドバック信号を再生します。 ＊1 メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”の設定（☞46 ページ）が“2ch”のときに選べます。 ＊2 メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”の設定（☞46 ページ）が“2ch”または“1ch”のときに選べます。 ＊3 DTS ソースを再生中に選べます。 ＊4 ディスクリート 6.1 チャンネル信号の識別信号が含まれている DTS ソースを再生中に選べます。“AFDM”（☞40ページ）が“ON”のときは、AFDM機能によりサラウンドバックチャンネルを再生します。“AFDM” が“OFF” のときに選ぶと、ソースのサラウンドバック信号を再生します。 • **サラウンド** を押しても設定できます。 • 再生しているソースにサラウンドバック信号が含まれている場合は、AFDM 機能によりデコーダーの種類を自動的に選択します。お好みのデコードに切り替えるには、“AFDM”を“OFF”に設定してください。 レコーダー BD/DVD TV ビデオ選択 フロントHDMI VCR(iPod) ケーブル インプットモード DSPシミュレーション サラウンド ダイレクト/ステレオ スリープ シネマ ミュージック MULTEQ ディマー **ご注意** メニューの“Speaker Config.” ⇨“S.Back” の設定（☞46 ページ）が“Large”または“Small”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Subwoofer サブウーハー出力のオン / オフを設定します。	**ON**：出力します。 **OFF**：出力しません。 **ご注意** サラウンドモードが“DIRECT”モード（☞30 ページ）で、メニューの“SW Mode”設定（☞46 ページ）が“LFE+Main”のときに設定できます。
Default “Surround Parameter”で設定された内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

Tone Control

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
Tone Control トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。	**ON**：低音や高音のトーンを調節できます。 **OFF**：トーンを調節せずに再生します。 メニューの“Dynamic EQ”設定（☞42 ページ）が“OFF”のときに設定できます。 **ご注意** サラウンドモードが“DIRECT”モードのとき、トーンの調節はできません。
Bass 低音を調節します。	**-6dB ～ +6dB (0dB)** メニューの“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
Treble 高音を調節します。	**-6dB ～ +6dB (0dB)** メニューの“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。

Audyssey Settings

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の設定をします。
これらの設定は、Audyssey® Auto Setup をおこなった後に設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、61 ページをご覧ください。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなっていない場合、または Audyssey Auto Setup をおこなった後にスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できず、"Run Audyssey"を表示します。
このような場合は、再度 Audyssey Auto Setup をおこなうか、"Restore"（☞17 ページ）をおこなって Audyssey Auto Setup 実行後の設定に戻してください。

設定項目	設定内容
MultEQ MultEQ は、Audyssey Auto Setup の測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 3 種類の補正カーブから選択します。"Audyssey" に設定することをおすすめします。 MultEQ の設定は、Dynamic EQ や Dynamic Volume を動作させるために必要です。	**<u>Audyssey</u>**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **OFF**："MultEQ"を使用しません。 • Audyssey Auto Setup をおこなうと、"Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"および"Audyssey Flat"が選択できます。 • Audyssey Auto Setup 後は自動的に"Audyssey"になります。 • "Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R" または"Audyssey Flat" が選ばれたときは、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup をおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 • **MULTEQ** を押しても、MultEQ の設定ができます。 **ご注意** ヘッドホン使用時、"MultEQ"の設定は自動的に"OFF"になります。
Dynamic EQ® 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ は MultEQ と連動して動作します。	**<u>ON</u>**："Dynamic EQ"を使用します。 **OFF**："Dynamic EQ"を使用しません。 • "ON"に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ 表示が点灯します。 • "Dynamic EQ" を"ON" に設定すると、"Tone Control"は"OFF"になります。 • **DYN VOL** を押しても Dynamic EQ の設定ができます。 ボタンを押すたびに、次の順序で設定が切り替わります。 Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : ON → Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : OFF → Dynamic EQ : OFF / Dynamic EQ : OFF
Reference Level Offset Audyssey Dynamic EQ は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	**<u>0dB</u>**（フィルムリファレンス）：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 This setting should also be selected for TV content as that is usually mixed at 10 dB below film reference. **15dB**：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 メニューの"Dynamic EQ"設定（☞42 ページ）が"ON"のときに設定できます。

リモコンの操作ボタン

メニュー メニューを表示する／メニューを解除する

カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）

確定 設定を確定する

戻る ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
Dynamic Volume® テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調整します。	**ON**：“Dynamic Volume” を使用します。Dynamic Volume の効果は “Setting” で設定します。 **OFF**：“Dynamic Volume”を使用しません。 • “Dynamic Volume” を “ON” に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup（☞16ページ）で“Dynamic Volume”を“Yes”に設定した場合は、自動的に“Evening”になります。
Setting “Dynamic Volume” の効果を設定します。	**Day**：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **Evening**：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Midnight**：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 メニューの“Dynamic EQ”設定（☞42ページ）が“ON”のときに設定できます。

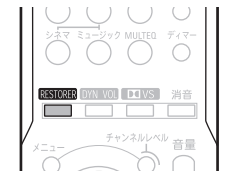
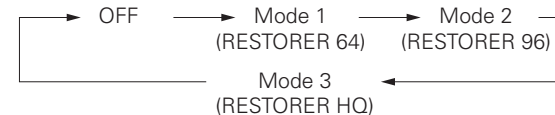
RESTORER

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定内容

OFF：RESTORER を使用しません。
Mode 1（RESTORER 64）：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。
Mode 2（RESTORER 96）：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。
Mode 3（RESTORER HQ）：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

- アナログ信号や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに、設定することができます。
- サラウンドモードが“DIRECT”モードのときは設定できません。
- 入力ソース“iPod” および“USB/iPod” のお買い上げ時の設定は、“Mode 3” です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて“OFF”です。
- “OFF”以外に設定すると、ディスプレイの RSTR 表示が点灯します。
- **RESTORER** を押しても、RESTORER の設定ができます。
  押すたびに、次の順序でモードが切り替わります。

  OFF → Mode 1（RESTORER 64） → Mode 2（RESTORER 96） → Mode 3（RESTORER HQ） → OFF

Audio Delay

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容

0ms～200ms

- メニューの“Auto Lip Sync”の設定が“ON”のとき、および Auto Lip Sync 対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- “Audio Delay”の設定は、入力ソースごとに記憶させることができます。
- HDMI 信号を再生中は、 を押して“OSD”（メニュー画面）を“OFF”に設定することで、映像を見ながら調節できます。
  解除するときは、もう一度 △ を押してください。“OSD”（メニュー画面）のみの表示に切り替わります。

ご注意

“DIRECT”モード（Front Speaker:“Large”、Tone Control:“OFF”、MultEQ:“OFF”、RESTORER:“OFF”）の再生中は、調節できません。

情報（2.Information）

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

メニューの操作のしかた

1 メニュー を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

3 確定 を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、戻る を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に メニュー を押してください。メニュー画面が消えます。

項目	設定内容
Status 現在の設定状態を表示します。 ご注意 表示する内容は、入力ソースによって異なります。	**Select Source**（入力ソース選択） **Surround Mode**（サラウンドモード） **Input Mode**（入力モード） **Decode Mode**（デコードモード） **HDMI**（HDMI 入力端子の割り当て） **Digital**（デジタル入力端子の割り当て） **iPod Dock**（iPod 用コントロールドックの割り当て） **Video Select**（ビデオセレクト機能）
Audio Input Signal 音声入力信号の情報を表示します。	**Surround Mode**：設定しているサラウンドモード **Signal**：入力信号の種類 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **Format**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **Offset**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **Flag**：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号がDolby Digital EX、DTS-ES Matrixのときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。

ダイアログノーマライゼーション機能について

Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。
補正値は、リモコンの **ステータス** または本体の **STATUS** でも確認できます。

Offset − 4dB

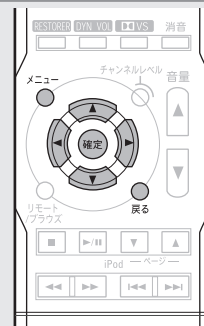
数字は補正値です。変更できません。

項目	設定内容
HDMI Information HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**HDMI Signal Information**（HDMI 信号情報） • **Resolution**（解像度） **Color Space**（色空間方式） **Pixel Depth**（ビット数）
	HDMI Monitor Information（HDMI モニター情報） • **Interface**（インターフェース） **Support Resolution**（対応解像度）
Auto Surround Mode オートサラウンドモードまたはジャンルオートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	❏ **Auto Surround Mode 時** **Analog/PCM**（アナログ /PCM） **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル） **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル） **Multi Ch**（マルチチャンネル） ジャンルオートサラウンド機能（☞48 ページ）がはたらいていないときに表示します。 ❏ **Genre Auto Surround 時** **TV PROGRAM**（ニュース・情報・バラエティ等） **DRAMA**（ドラマ） **SPORTS**（スポーツ） **CINEMA**（映画） **MUSIC**（音楽） ジャンルオートサラウンド機能（☞48 ページ）がはたらいており、入力ソースが“TV”のときに表示します。
Quick Select 「クイックセレクト機能」（☞36 ページ）に記憶している内容を表示します。	**MOVIE**（映画） **MUSIC**（音楽） **GAME**（ゲーム） • **Name**（クイックセレクトネーム） **Input Source**（入力ソース） **Volume Level**（音量レベル） **Video Select**（ビデオセレクト機能） **MultEQ®** **Dynamic EQ®** **Dynamic Volume®** **Analog/PCM**（アナログ /PCM） **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル） **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル） **Multi Ch**（マルチチャンネル）

詳細な設定をする(3.Manual Setup)

Audyssey Auto Setup® の設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更するときに設定します。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ、Dynamic EQ および Dynamic Volume の選択ができなくなります(☞42、43 ページ)。

メニューの操作のしかた

1 メニュー ◯ を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

3 確定 を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◯戻る を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に メニュー ◯ を押してください。メニュー画面が消えます。

"Manual Setup"でできること

Speaker Setup (☞45ページ)

```
4-1. Speaker Setup

1. Speaker Config.
2. Bass Setting
3. Distance
4. Channel Level
5. Crossover Freq.

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

HDMI Setup (☞48 ページ)

```
4-2. HDMI Setup

Auto Lipsync    : ON
HDMI Audio Out  : Amp
HDMI Control    : OFF

[RTN]:Back
```

Audio Setup (☞48 ページ)

```
4-3. Audio Setup

1. Auto Surround Mode
2. Bilingual Mode

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Option Setup (☞49 ページ)

```
4-5. Option Setup

1. Volume Control
2. On-Screen Display
3. Setup Lock

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Speaker Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey Auto Setup で測定した内容を変更するときにおこなってください。
- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ、Dynamic EQ および Dynamic Volume の選択ができなくなります(☞42、43 ページ)。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
Speaker Config. スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 **ご注意** "Large" と"Small" の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの "Crossover Frequency"(☞47ページ)で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**Front**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **<u>Small</u>**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 "Subwoofer" の設定が"No" の場合、"Front" の設定は自動的に "Large"になります。
	Center：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **<u>None</u>**：センタースピーカーを使用しません。 • "Front"の設定が"Small"の場合、"Large"は表示しません。 • Center" を"Large" に設定しても、"Front" を"Small" に設定すると、"Center"の設定は自動的に"Small"に切り替わります。
	Subwoofer：サブウーハーの有無を設定します。 • **<u>Yes</u>**：サブウーハーを使用します。 • **No**：サブウーハーを使用しません。 "Front" の設定が"Small" の場合、"Subwoofer" の設定は自動的に "Yes"になります。

次のページへ

設定項目	設定内容
Speaker Config. （つづき）	**Surround**：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “Surround” の設定が “Large” のとき “、“S.Back” を “Large” に設定できます。 • “Surround” の設定が “None” のとき “、“S.Back” の設定は自動的に “None” になります。 • “Front” の設定が “Small” の場合は、“Large” を表示しません。
	S.Back（プリアウト）：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさ、本数を設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2ch**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1ch**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 • “S.Back” を “None” 以外に設定しても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。このような場合は、メニューの “Surround Parameter”⇨“S.Back”（☞41 ページ）を “OFF” 以外に設定してください。 • “Surround” の設定が “Small” の場合は、“Large” を表示しません。 • “S.Back” を “Large” に設定しても、“Surround” を “Small” に設定すると、“S.Back” の設定は自動的に “Small” に切り替わります。

設定項目	設定内容
Bass Setting サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**SW Mode**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを “Small” に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+Main**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • “SW Mode” は、“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”（☞45 ページ）の設定が “Yes” のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+Main” に設定してください。 ご注意 メニューの “Speaker Config.” の “Front”、“Center” の設定が “Large” で、なおかつ “SW Mode” の設定が “LFE” の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。
	LPF for LFE：LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。 • **80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz**
Distance リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**Step**：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m**
	Front L/Front R/Center/Subwoofer/Surround L/Surround R/S.Back L*/S.Back R*：距離を設定するスピーカーを選びます。 * メニューの “Speaker Config.”⇨“S.Back” 設定（☞46 ページ）が “1ch” のときは、“S.Back” を表示します。 • **0.00m～18.00m**：距離を設定します。 • メニューの “Speaker Config.”（☞45 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： Front L/Front R/Center/Subwoofer：3.6m Surround L/Surround R/S.Back L/S.Back R：3.0m • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.0m 以下になるように設定してください。 ご注意 メニューの “Speaker Config.”（☞45 ページ）で、“None” に設定したスピーカーは表示しません。

リモコンの操作ボタン	メニュー メニューを表示する / メニューを解除する	カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）	確定 設定を確定する	戻る ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
Distance （つづき）	**Default**：“Distance”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで 確定 を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、確定 を押してください。
Channel Level 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**Test Tone Start**：テストトーンを出力します。 • **Front L**/**Front R**/**Center**/**Subwoofer**/**Surround L**/**Surround R**/**S.Back L**＊/**S.Back R**＊：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 ＊ メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞46ページ）が“1ch”のときは、“S.Back”を表示します。 • **-12.0dB～+12.0dB (0.0dB/+6.0dB)**：音量を調節します。 • サブウーハーの音量が“-12dB”のときに ◁ を押すと、“Subwoofer”の設定は“OFF”になります。 • “Channel Level”を調節すると、調節した値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。 ご注意 • メニューの“Speaker Config.”設定（☞45ページ）で、“None”または“No”に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体のPHONES端子にヘッドホンが挿入されている場合は、“Channel Level”を表示しません。 • ミューティング中にテストトーンの出力を開始した場合は、ミューティングを解除します。
	Default：“Channel Level”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

設定項目	設定内容
Crossover Frequency 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	**Crossover**：すべてのスピーカーに対して、クロスオーバー周波数を設定します。 • **40Hz**/**60Hz**/**80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz** **Advanced**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • **Front**/**Center**/**Surround**/**S.Back**：クロスオーバー周波数を設定するスピーカーを選びます。 • **40Hz**/**60Hz**/**80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 • “Advanced”は、メニューの“SW Mode”設定（☞46ページ）が“LFE+Main”のとき、または“Small”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。 • “Small”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • メニューの“SW Mode”（☞46ページ）の設定により、“Advanced”で設定できるスピーカーが異なります。 • “LFE”の場合は“、“Speaker Config.”で“Small”に設定しているスピーカーの設定ができます。“Large”に設定しているスピーカーのときは、“Full Band”が表示され、設定できません。 • “LFE+Main”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。

HDMI Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Lip Sync 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**ON**：補正します。 **OFF**：補正しません。
HDMI Audio Out HDMI の音声の出力先を設定します。	**Amp**：本機に接続したスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続したテレビで再生します。 HDMI コントロール機能がはたらいているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します（☞17 ページ「HDMIコントロール機能を設定する」）。
HDMI Control HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	**ON**：HDMI コントロール機能を使用します。 **OFF**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、“HDMI Control”を“OFF”に設定してください。 • 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMIコントロール機能については、☞17ページ「HDMIコントロール機能を設定する」をご覧ください。 ご注意 • **“HDMI Control”を“ON”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 • HDMI コントロール機能は、電源をオンにするか、スタンバイ状態のときに動作します。 • HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 • “HDMI Control”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
Standby Source 電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	**Last**：電源を入れたとき、前回使用していた入力ソースでスタンバイします。 **DVR / BD / FRONT（フロントパネルの HDMI 端子）**：電源を入れたとき、それぞれの入力端子を割り当てた入力ソースでスタンバイします。 “Standby Source”は“HDMI Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
Power Off Control 本機と外部機器の電源オフを連動します。	**ON**：本機はテレビの電源に連動します。 **OFF**：本機はテレビの電源に連動しません。 “Power Off Control”は、“HDMI Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
Genre Auto Surr. 本機に HDMI 入力している放送番組のジャンルに合わせてサラウンドモードを自動的に切り替えます。	**ON**：自動的にサラウンドモードを切り替えます。 **OFF**：自動的にサラウンドモードを切り替えません。 • テレビも放送番組に応じてサラウンドモードを自動的に切り替える機能に対応していることが必要です。 テレビの対応メーカー：東芝、日立（2010 年 10 月現在） • “Genre Auto Surr.”は、“HDMI Control”の設定が“ON”のときに設定できます。

Audio Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Surround Mode 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**ON**：記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動再生します。 **OFF**：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログや PCM の 2 チャンネル信号 ② Dolby Digital や DTS などの 2 チャンネル信号 ③ Dolby Digital や DTS などのマルチチャンネル信号 ④ PCM のマルチチャンネル信号
Bilingual Mode AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	**Main**：主音声のみ出力します。 **Sub**：副音声のみ出力します。 **Main+Sub**：主音声と副音声をミックスして出力します。 **Main/Sub**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 このモードは、二重音声のソースを再生中に設定できます。

Option Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

その他の設定をします。

設定項目	設定内容
Volume Control 音量に関する設定をします。	**Vol. Limit**：音量の上限を設定します。 • **OFF**：音量の上限を設定しません。 • **40/50/60**
	Power On Lev.：電源をオンにしたときの音量を設定します。 • **Last**：前回使用したときの音量になります。 • **0**：常に消音状態になります。 • **1〜99**：設定した音量になります。
	Mute Lev.：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **Full**：消音状態になります。 • **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
On-Screen Display テレビ画面の表示に関する設定をします。	**Screensaver**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **ON**：メニューの表示中、および iPod 画面を表示中に何も操作をしない状態が 3 分以上続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、スクリーンセーバー表示前の画面を表示します。 • **OFF**：使用しません。
	Text：サラウンドモードや入力モード切り替えなどの操作時に、各状態を表示します。 • **ON**：表示します。 • **OFF**：表示しません。
	Master Volume：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **Bottom**：画面下に表示します。 • **Top**：画面上に表示します。 • **OFF**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、"Top"に設定してください。
	iPod Info.：入力ソースが"VCR/iPod"のときに、iPod 画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30sec**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。

設定項目	設定内容
Setup Lock 設定した内容を変更できないようにロックします。	**ON**：設定した内容をロックします。 **OFF**：設定した内容をロックしません。 設定を解除するときは、"Setup Lock"を"OFF"に設定してください。 **ご注意** "Setup Lock"を"ON"に設定すると、次の設定が変更できなくなります。また、次の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに"SETUP LOCKED!"を表示します。 ・メニュー操作 ・RESTORER ・MultEQ® ・Dynamic EQ® ・Dynamic Volume® ・Channel Level

入力の設定（5.Input Setup）

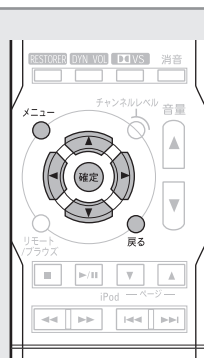
現在選択している入力ソースに関する設定をします。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 メニュー ◯ **を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

2 △▽ **を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

3 確定 **を押して、設定を確定する。**

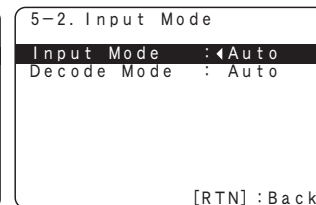
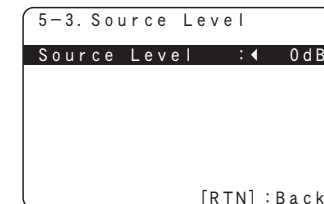
- 前の項目に戻るときは、◯（戻る）を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に メニュー ◯ を押してください。メニュー画面が消えます。

知っておいてほしいこと

❏本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

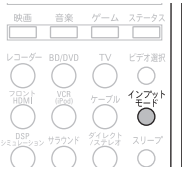
DVR **BD/DVD** **F. HDMI** **CABLE** **TV** **VCR/iPod**

“Input Setup”でできること

Video In（☞50 ページ）　Input Mode（☞51 ページ）

Source Level（☞51 ページ）iPod Playback Mode（☞51 ページ）

Video In

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

VCR/iPod の映像入力端子には、ビデオ入力端子と S ビデオ入力端子の 2 つがあります。
あらかじめ使う側の入力端子を設定してください。

設定内容
COMPOSITE：ビデオ入力端子（黄色）を使います。 **S-VIDEO**：S ビデオ入力を使います。

ご注意
ビデオ入力端子と S ビデオ入力端子の両方を同時に使うことはできません。

Input Mode

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。

設定項目	設定内容
Input Mode テレビから本機への音声入力信号を設定します。 TV	**Auto**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **Digital**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Analog**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 • "デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの DIG. 表示が点灯します。DIG. 表示が点灯しない場合は接続を確認してください。 • **インプットモード** を押しても設定できます。 ボタンを押すたびに、次の順序でモードが切り替わります。 → Auto → Digital → Analog
Decode Mode 各入力ソースのデコードモードを設定します。 DVR BD/DVD F. HDMI TV	**Auto**:デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 • 入力ソースが"TV" のときは、"Input Mode" 設定が"Auto" または "Digital"のときに設定できます。 • 通常は"Auto" に設定してください。"PCM" や"DTS" は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

Source Level

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースのアナログ音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容
-12dB～+12dB（0dB）

iPod Playback Mode

入力ソースが"VCR/iPod"で、iPod 用コントロールドックを接続しているときに iPod の再生モードを設定します。

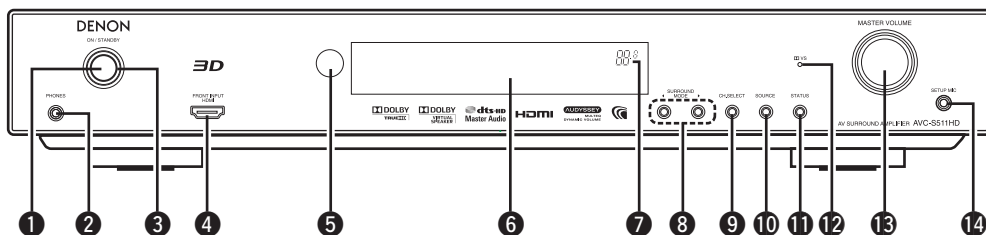
設定項目	設定内容
Repeat リピート再生モードを設定します。 VCR/iPod	❑ **iPod 再生時** **All**：すべての曲をリピート再生します。 **One**：再生中の曲をリピート再生します。 **OFF**：リピート再生モードをキャンセルします。
Shuffle シャッフル再生モードを設定します。 VCR/iPod	❑ **iPod 再生時**（iPod、DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R を接続しているとき） **Songs**：曲をシャッフル再生します。 **Albums**：アルバムをシャッフル再生します。 **OFF**：シャッフル再生モードをキャンセルします。 ❑ **iPod 再生時**（DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を接続しているとき） **ON**：シャッフル再生モードを有効にします。 **OFF**：シャッフル再生モードをキャンセルします。

情報編

**ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。**

各部の名前

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

フロントパネル

❶ **電源ボタン(ON/STANDBY)** ……(12、18)

❷ **ヘッドホン端子(PHONES)**
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意
ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

❸ **電源表示**

❹ **フロントHDMI入力端子 (FRONT INPUT HDMI)**……………………(22)

❺ **リモコン受光部**………………………………………(55)

❻ **ディスプレイ**…………………………………………(53)

❼ **主音量およびメニュー番号表示**…(25、38)

❽ **サラウンドモード切り替えボタン (SURROUND MODE)** ……………………(28)

❾ **チャンネルセレクトボタン (CH.SELECT)**…………………………………(35)

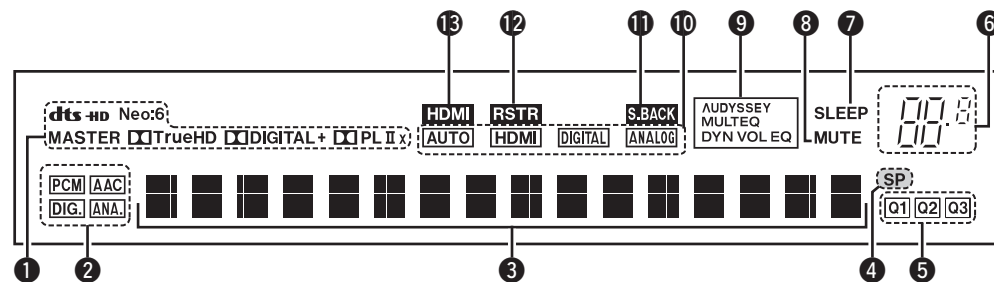
❿ **入力ソース切り替えボタン (SOURCE)** ……………………………………(25)

⓫ **状態表示ボタン(STATUS)**…(27、34、44)

⓬ **ドルビーバーチャルスピーカー表示**….(30)

⓭ **主音量調節つまみ (MASTER VOLUME)** ……………………(25)

⓮ **セットアップマイク端子 (SETUP MIC)**…………………………(13、33)

ディスプレイ

❶ **デコーダー表示**
動作中のデコーダーを点灯します。

❷ **入力音声信号表示**

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモードおよび設定値などの情報を表示します。

❹ **フロントスピーカー表示**
スピーカーから音声を出力しているときに点灯します。

❺ **クイックセレクト表示**
クイックセレクト機能が設定されているときに点灯します(☞36 ページ)。
Q1：映画、Q2：音楽、Q3：ゲーム

❻ **主音量表示**
設定操作中は、メニュー番号を表示します。

❼ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーの動作中に点灯します(☞35 ページ)。

❽ **ミュート表示**
ミューティング中に点滅します(☞25 ページ)。

❾ **AUDYSSEY表示**
各モード時に次のように表示します(☞42、43 ページ)。

"Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"ON"のとき

"Dynamic EQ"の設定が"ON"、"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき

AUDYSSEY
MULTEQ

"Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき

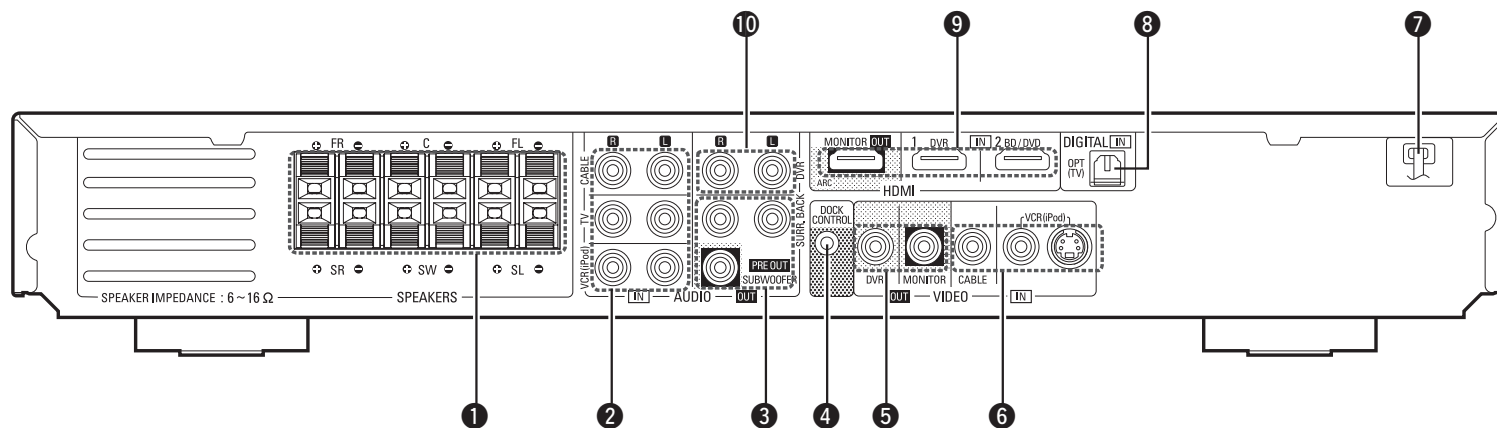
※オートセットアップ後に、スピーカー設定を変えると表示の枠が消灯するか、すべての表示が消灯します。

❿ **入力モード表示**

⓫ **サラウンドバック表示**
SURR.BACK 音声出力端子からサラウンドバック音声を出力しているときに点灯します(☞41 ページ)。

⓬ **RESTORER表示**
RESTORERの動作中に点灯します(☞43 ページ)。

⓭ **HDMI表示**
HDMI 入力信号を検出しているときに点灯します。

リアパネル

❶ スピーカー端子（SPEAKERS）…（10、33）

❷ アナログ音声入力端子（AUDIO）……（23、24）

❸ プリアウト端子（PRE OUT）……（25、33）

❹ iPod ドック用コントロール端子 ……（24）

❺ 映像出力端子（VIDEO）……（23、24）

❻ 映像入力端子（VIDEO）……（23、24）

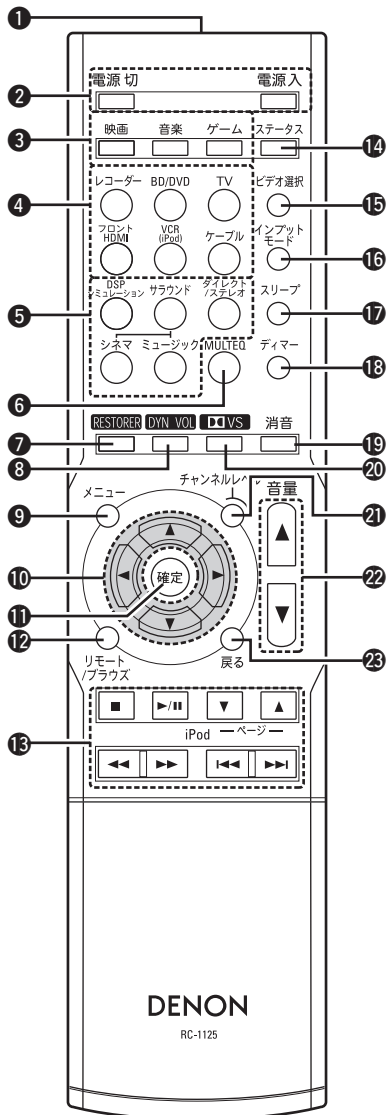
❼ 電源コード ……（11）

❽ デジタル音声端子（DIGITAL）……（23）

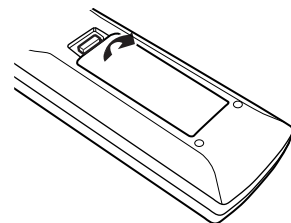
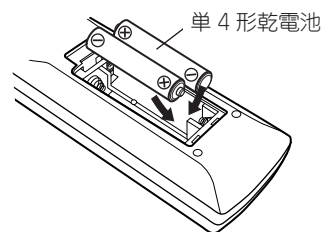
❾ HDMI 端子（HDMI）……（11、22）

❿ アナログ音声出力端子（AUDIO）……（23、24）

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

❶ リモコン信号送信部
❷ 電源ボタン ………………………………（12、18）
❸ クイックセレクトボタン
（映画、音楽、ゲーム）…………………（36）
❹ 入力ソース選択ボタン……………………（25）
❺ サラウンドモード
切り替えボタン………………………（28 ～ 30）
❻ MultEQ ボタン……………………………（42）
❼ RESTORER ボタン………………………（43）
❽ Dynamic Volume ボタン ………………（42）
❾ メニューボタン……………………………（38）
❿ カーソルボタン……………………………（38）
⓫ エンターボタン（確定）…………………（38）
⓬ リモート／ブラウズボタン …………（26、27）
⓭ iPod ドッグ用操作ボタン ………………（27）
⓮ 状態表示ボタン
（ステータス）…………………（27、34、44）
⓯ ビデオセレクトボタン
（ビデオ選択）……………………………（34）
⓰ 入力モード切り替えボタン
（インプットモード）……………………（51）
⓱ スリープタイマーボタン
（スリープ）………………………………（35）
⓲ ディマーボタン……………………………（25）
⓳ ミューティングボタン（消音）…………（25）
⓴ ドルビーバーチャルスピーカーボタン
（DD VS）……………………………………（30）
㉑ チャンネルレベル調節ボタン……………（35）
㉒ 主音量調節ボタン（音量）………………（25）
㉓ リターンボタン（戻る）…………………（38）

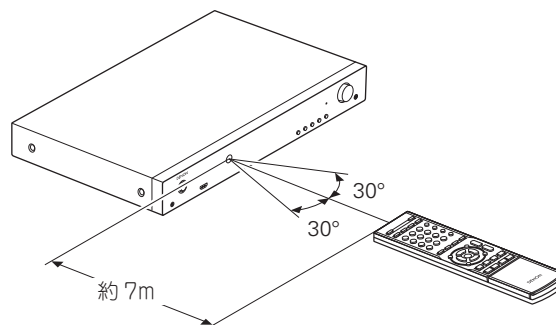
乾電池の入れかた

① 裏ぶたを矢印の方向へ引き上げながら取り外す。

② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をお使いください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてお使いください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

DOLBY TRUEHD PRO LOGIC IIx	ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
dts-HD Master Audio	本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTSHD および DTS-HDMaster Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc.©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。
HDMI	HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。
AUDYSSEY MULTEQ DYNAMIC VOLUME	本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ®、Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の商標です。

Made for iPod iPhone	"Made for iPod" and "Made for iPhone" mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance. iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. • iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サラウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サラウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、"Speaker Config."（☞45ページ）の設定により出力するチャンネルが異なります。

サラウンドモード（☞28 ページ）	チャンネル出力					Surround Parameter（☞39 ページ）								
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンドバック 左 / 右	サブウーハー	Mode（☞39ページ）	Cinema EQ.（☞39ページ）	D. Comp ＊1（☞39ページ）	DRC ＊3（☞40ページ）	LFE ＊2（☞40ページ）	PRO LOGIC II/IIx MUSICモードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ
											Panorama（☞40ページ）	Dimension（☞40ページ）	Center Width（☞40ページ）	Center Image（☞40ページ）
DIRECT（2 チャンネル）	○				◎ ＊6			○	○	○				
DIRECT（マルチチャンネル）	○	◎	◎	◎ ＊7	◎			○	○	○				
STEREO	○				◎			○	○	○				
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎					○				
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎					○				
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	○	○ ＊4	○	○		○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎		◎	○	○ ＊5	○	○		○	○	○	
DOLBY VIRTUAL SPEAKER	○				○			○	○	○				
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○	○ ＊4	○						○
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎		○	○		○				
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎		○	○		○				
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎		○		○	○				
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎		○	○		○				
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎		○	○		○				
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎		○	○		○				
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎		○			○				
5CH/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎			○		○				
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎			○		○				
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎			○		○				
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎			○		○				
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎			○		○				
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎			○		○				
VIRTUAL	○				◎			○		○				

＊1　この項目は、Dolby Digital および DTS 信号を再生時に選択できます。
＊2　この項目は、Dolby Digital、DTS およびリニア PCM（マルチチャンネル）信号を再生時に選択できます。
＊3　この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
＊4　この項目は、メニューの"Surround Parameter"⇨"Mode"設定（☞39 ページ）が"Cinema"のときに設定できます。
＊5　この項目は、メニューの"Surround Parameter"⇨"Mode"設定（☞39 ページ）が"Cinema"または"PL"のときに選べます。
＊6　この項目は、メニューの"Bass Setting"⇨"SW Mode"設定（☞46 ページ）が"LEF＋Main"のときにサブウーハーから音声を出力します。
＊7　サラウンドバックの入力信号が含まれる場合に音声を出力を出力します。

次のページへ

サラウンドモード（☞28 ページ）	Surround Parameter（☞39 ページ）										
	Delay Time（☞40ページ）	Effect Level（☞40ページ）	Room Size（☞40ページ）	AFDM ＊1（☞40ページ）	S.Back（☞41 ページ）	Subwoofer（☞41 ページ）	Tone Control ＊6（☞41 ページ）	MultEQ（☞42ページ）	Dynamic EQ ＊8（☞42ページ）	Dynamic Volume ＊9（☞43ページ）	RESTORER ＊10（☞43ページ）
DIRECT（2 チャンネル）						○					
DIRECT（マルチチャンネル）											
STEREO							○	○	○	○	○
MULTI CH IN				○	○		○	○	○	○	
MULTI CH DIRECT					○			○ ＊6	○ ＊6	○ ＊6	
DOLBY PRO LOGIC IIx					○		○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II					○		○	○	○	○	○
DOLBY VIRTUAL SPEAKER							○	○	○	○	○
DTS NEO:6					○		○	○	○	○	○
DOLBY DIGITAL				○	○		○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus				○	○		○	○	○	○	
DOLBY TrueHD				○	○		○	○	○	○	
DTS SURROUND				○	○		○	○	○	○	
DTS-96/24				○	○		○	○	○	○	
DTS-HD				○	○		○	○	○	○	
MPEG2 AAC				○	○		○	○	○	○	○
5CH/7CH STEREO					○		○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○		○		○ ＊7	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○		○		○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○		○		○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○		○		○	○	○	○	○
MATRIX	○				○		○	○	○	○	○
VIRTUAL							○	○	○	○	○

＊1　この項目は、Dolby Digital および DTS 信号を再生時に選択できます。
＊6　メニューの“Dynamic EQ”設定（☞42 ページ）が“ON”のとき、この項目を設定できません。
＊7　このモードのときは、低音が +6dB、高音が +4dB になります。（お買い上げ時の設定）
＊8　メニューの“MultEQ”設定（☞42 ページ）が“OFF”のとき、この項目を設定できません。
＊9　メニューの“Dynamic EQ”設定（☞42 ページ）が“OFF”のとき、この項目を設定できません。
＊10 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

入門編
基本編
応用編
情報編

❑入力信号の種類と対応するサラウンドモード

この表は、各サラウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認のうえ、サラウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

● お買い上げ時に設定されているサラウンドモードを示します。
◎ メニューの“Surround Parameter”⇨“AFDM”設定(☞40ページ)が“ON”のときに、固定するサラウンドモードを示します。
○ 選択できるサラウンドモードを示します。

2 チャンネル / 2.1 チャンネル設定

サラウンドモード (☞28 ページ)	注	入力信号の種類とフォーマット																	
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC	
		ANALOG	LINEAR PCM (マルチチャンネル)	LINEAR PCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (マルチチャンネル)	AAC (2ch)
STEREO																			
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DOLBY VIRTUAL SPEAKER		○	○	○	○ ＊1	○	○	○	○	○ ＊1	○	○	○	○	○	○	○	○	○

マルチチャンネル設定

サラウンドモード (☞28 ページ)	注	入力信号の種類とフォーマット																	
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC	
		ANALOG	LINEAR PCM (マルチチャンネル)	LINEAR PCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (マルチチャンネル)	AAC (2ch)
DTS SURROUND																			
DTS-HD MSTR					●														
DTS-HD HI RES						●													
DTS ES DSCRT6.1	＊2						●◎												
DTS ES MTRX6.1	＊2							●◎											
DTS SURROUND							○	○	●										
DTS 96/24										●									
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	＊3				○	○	○	○	○	○									
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	＊2				○	○	○	○	○	○									
DTS (–HD) + NEO:6	＊2				○	○		○	○	○									
DTS NEO:6 CINEMA		○		○													○		○
DTS NEO:6 MUSIC		○		○													○		○

＊1 この項目は、入力ソースのサンプリング周波数が 192kHz のときは選択できません。
＊2 メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定(☞46 ページ)が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊3 メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定(☞46 ページ)が“1ch”または“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。

サラウンドモード（☞28 ページ）	注	入力信号の種類とフォーマット																	
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC	
		ANALOG	LINEAR PCM（マルチチャンネル）	LINEAR PCM（2ch）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS（5.1ch）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4ch）	DOLBY DIGITAL（4/3ch）	DOLBY DIGITAL（2ch）	AAC（マルチチャンネル）	AAC（2ch）
DOLBY SURROUND																			
DOLBY TrueHD											●								
DOLBY DIGITAL+												●							
DOLBY DIGITAL EX	＊1												○	○	○	○			
DOLBY (D+) (HD) +EX	＊1										○	○							
DOLBY DIGITAL													○	●	●	●			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡx CINEMA	＊2										○	○	●◎	○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡx MUSIC	＊1										○	○	○	○	○	○			
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx CINEMA	＊1	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx MUSIC	＊1	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx GAME	＊1	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ CINEMA		○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ MUSIC		○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ GAME		○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC		○		○													○		○
MULTI CH IN																			
MULTI CH IN			●																
MULTI CH IN + PLⅡx CINEMA	＊2		○																
MULTI CH IN + PLⅡx MUSIC	＊1		○																
MULTI CH IN + Dolby EX	＊1		○																
MULTI CH IN 7.1			●◎ (7.1)																
DIRECT																			
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DSP SIMULATION																			
5CH/7CH STEREO		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
STEREO																			
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DOLBY VIRTUAL SPEAKER		○	○	○	○ ＊3	○	○	○	○	○ ＊3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MPEG-2 AAC																			
MPEG-2 AAC																		○	
AAC + Dolby EX	＊1																	○	
AAC + PLⅡx CINEMA	＊2																	○	
AAC + PLⅡx MUSIC	＊1																	○	

＊1　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞46 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊2　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞46 ページ）が“1ch”または“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。

A

Adobe RGB color / Adobe YCC601 color
x.v.Color と同様、これらのカラースペースは従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

Audyssey Dynamic EQ®
Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®
Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は、Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ®
Audyssey MultEQ は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Auto Lip Sync
Auto Lip Sync 機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

D

Deep Color
従来の 8 ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

Dolby Digital
Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX
Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した6.1 チャンネルのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた6.1 チャンネルでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic Ⅱ
Dolby Pro Logic Ⅱ は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性 20Hz ～ 20kHz 以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic Ⅱx
Dolby Pro Logic Ⅱx は、Dolby Pro Logic Ⅱ をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

DTS
Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24
DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround
DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1
DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1
DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-HD
ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

次のページへ

DTS NEO:6™ Surround
DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した"DTSNEO:6 Cinema"と、音楽再生に適した"DTS NEO:6 Music"があります。

H

HDCP
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術のひとつです。

HDMI
High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

L

LFE
Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)
音声データ圧縮方式のひとつで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG-2 AAC
MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)は、MPEG(Moving Picture Experts Group)により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

S

sYCC601 color
x.v.Color と同様、このカラースペースは従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

W

WMA (Windows Media Audio)
米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。
WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、または Windows Media® Player 9 Series を使用してエンコード(符号化)することができます。
WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

X

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
"x.v.Color"はソニーの登録商標です。

さ行

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことでΩ(オーム)という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

た行

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行

保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

故障かな？と思ったら

- ❑ 各接続は正しいですか
- ❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
- ❑ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【 共通 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 • 保護回路がはたらいています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5 〜 10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	11 10、62
ディスプレイの表示が消える。	• ディマー機能で本機のディスプレイ表示を“消灯”以外の設定にしてください。	25
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	62 –
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどした後で、接続し直してください。	10 10、62
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	64

【 映像 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	22、23 –
DVD から VCR にダビングできない。	• 故障ではありません。ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	–

【 音声 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。 • スピーカーの接続を確認してください。 • 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • ミューティング（消音）モードを解除してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • メニューの“Input Mode”の設定を確認してください。 • 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取りはずしてください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	22 〜 25 10 – 25 25 25 51 53
サラウンドスピーカーから音が出ない。	• SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	–
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Speaker Config.” ⇨“S.Back”設定が“None”以外になっているか確認してください。 • メニューの“Surround Parameter” ⇨“S.Back”設定が“OFF”以外になっているか確認してください。 • サラウンドモードが“STEREO”以外になっているか確認してください。	46 41 28
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。 • メニューの“Speaker Config.” ⇨“Subwoofer”を“Yes”に設定してください。 • メニューの“Speaker Config.”の“Front.”、“Center”の設定が“Large”で、なおかつ“SW Mode”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。その場合、“SW Mode”の設定を“LFE + Main”にしてください。	10、33 45 45、46
DTS 音声を出力しない。	• メニューの“Decode Mode”を“Auto”または“DTS”にしてください。	51
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声を出力しない。	• HDMI で接続してください。	22
ディスプレイに“Not Available”を表示する。	• 選択できないリスニングモードを選んでいないか確認してください。	28、59、59

次のページへ

【HDMI】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI Audio Out”の設定を“Amp”に設定してください。 • HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの“HDMI Audio Out”の設定を“TV”に設定してください。	11、22 48 48
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護（HDCP）に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	11、22 25 21
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• メニューの“HDMI Control”を“OFF”に設定してください。各機器の電源のオン / オフのみ操作したい場合は、メニューの“Power Off Control”を“OFF”に設定してください。	48

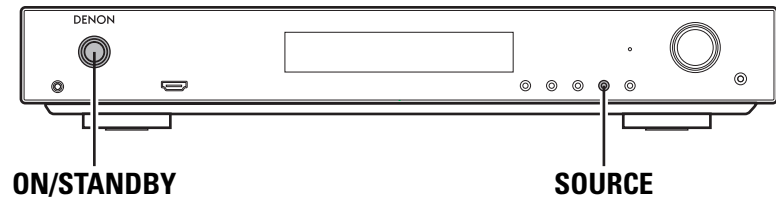
【iPod】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iPod が再生できない。	• iPod の接続を確認してください。 • iPod 用コントロールドックの AC アダプターをコンセントに挿入してください。 • 入力ソースを“VCR/iPod”に切り替えてください。	24 – 26
ディスプレイに“No Connection”が表示される。	• 正常に通信できません。本機の電源を切ってから iPod をはずし、再度接続してください。 • iPod からの応答がありません。本機の電源を切ってから iPod をはずし、再度接続してください。	– –

【 リモコン 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	55 55 55 55 55

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

1 **ON/STANDBY を押して、電源を切る。**

2 **SOURCE を約 5 秒間長押しする。**

3 **ディスプレイのすべての表示が点灯したら、ボタンから指を離す。**

手順 3 でディスプレイのすべての表示が点灯しない場合は、手順 1 からやり直してください。

主な仕様

AV アンプユニット　AVC-S511HD

❏ オーディオ部

• パワーアンプ部

定格出力：	フロント：27W+27W センター：27W サラウンド：27W+27W サブウーハー：27W （負荷 6 Ω、1 kHz T.H.D 0.7%）
実用最大出力：	フロント：34W+34W センター：34W サラウンド：34W+34W サブウーハー：34W （負荷 6 Ω、1 kHz T.H.D 10%、JEITA）
出力端子：	フロント / センター / サラウンド / サブウーハー：6 ～ 16Ω

• アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	140mV/47kΩ
周波数特性：	10Hz ～ 100kHz：+1、-3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	95dB（JIS-A）（DIRECT モード時）

❏ ビデオ部

• 標準映像端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz ～ 10MHz：+1、-3dB

❏ 総合

電源：	AC100V　50/60Hz
消費電力：	130W（電気用品安全法による） 0.3W（スタンバイ時）
最大外形寸法：	434（幅）× 70（高さ）× 318（奥行き）mm
質量：	6.2kg

❏ リモコン（RC-1125）

乾電池：	R03（単 4 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	50（幅）× 211（高さ）× 22（奥行き）mm
質量：	110g（乾電池を含む）

スピーカーユニット　SC-AS511 / SC-AE710 / DSW-S511

❏ フロントスピーカー　SC-AS511（DHT-S511HD のフロントスピーカー）

形式：	フルレンジ・2 スピーカー　密閉型
再生周波数域：	80Hz ～ 30kHz
入力インピーダンス：	6 Ω
最大許容入力：	40W（JEITA）、100W（PEAK）
平均出力音圧レベル：	82dB（1W・1m）
スピーカーユニット：	フルレンジ（5.7cm コーン形× 2）
最大外形寸法：	85（幅）× 188（高さ）× 115（奥行き）mm
質量：	0.9kg

❏ フロントスピーカー　SC-AE710（DHT-E710HD のフロントスピーカー）

形式：	2 ウェイ・3 スピーカー　密閉型
再生周波数域：	80Hz ～ 45kHz
入力インピーダンス：	6 Ω
最大許容入力：	40W（JEITA）、100W（PEAK）
平均出力音圧レベル：	82dB（1W・1m）
スピーカーユニット：	フルレンジ（5.7cm コーン形× 2） スーパーツィーター（1.6cm × 1）
最大外形寸法：	85（幅）× 188（高さ）× 115（奥行き）mm
質量：	0.9kg

❏ サブウーハー　DSW-S511

形式：	1 ウェイ・1 スピーカー　バスレフ型
再生周波数域：	30Hz ～ 300Hz
入力インピーダンス：	6 Ω
最大許容入力：	60W（JEITA）、120W（PEAK）
平均出力音圧レベル：	82dB（1W・1m）
スピーカーユニット：	16cm コーン型× 1
最大外形寸法：	136（幅）× 420（高さ）× 304（奥行き）mm
質量：	4.8kg

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※ 本機は国内仕様です。必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

保障と修理について

❏保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 …… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

❏お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

索引

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1
D&M ビル 3F

お客様相談センター　TEL：044-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：	年　月　日

Printed in China　5411 10594 002D